

熊本大学附属図書館
における組織評価
自己評価書

平成 26 年 9 月 29 日
39 附属図書館

目次

I	熊本大学附属図書館の現況及び特徴	4
II	社会貢献の領域に関する自己評価書	6
	1. 社会貢献の目的と特徴	7
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	7
	3. 観点ごとの分析及び判定	7
	4. 質の向上度の分析及び判定	29
III	国際化の領域に関する自己評価書	30
	1. 国際化の目的と特徴	31
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	31
	3. 観点ごとの分析及び判定	31
	4. 質の向上度の分析及び判定	34
IV	教育研究支援の領域に関する自己評価書	35
	1. 教育研究支援の目的と特徴	36
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	37
	3. 観点ごとの分析及び判定	37
	4. 質の向上度の分析及び判定	57
V	男女共同参画の領域に関する自己評価書	59
	1. 男女共同参画の目的と特徴	60
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	60
	3. 観点ごとの分析及び判定	60
	4. 質の向上度の分析及び判定	62
VI	管理運営の領域に関する自己評価書	63
	1. 管理運営の目的と特徴	64
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	64
	3. 観点ごとの分析及び判定	64
	4. 質の向上度の分析及び判定	83

I 熊本大学附属図書館の現況及び特徴

1 現況

(1) 学部等名：熊本大学附属図書館

(2) 学生数及び教員数（平成26年5月1日現在）

：学生数 0人、専任教員数（現員数）： 0人、助手数（ 0人）

2 特徴

熊本大学附属図書館は、昭和24年5月31日の熊本大学設置に伴い、熊本医科大学、第五高等学校、熊本師範学校男子部・女子部、熊本青年師範学校、熊本薬学専門学校及び熊本工業専門学校の各附属図書館（室）を統合して発足した。発足時の施設は、中央館が黒髪北、工学部分館が黒髪南、医学部分館が本荘、薬学部分館が大江の各地区に所在し、教育学部分館は京町と内坪井町にあり、それぞれで管理運営を行っていた。

現在は中央館のほか2分館（医学系と薬学部）の体制をとっている。この間、蔵書数が約7倍に増えたことをはじめ、分館における24時間開館の実現や、電子コンテンツの集積・整備を行うなど、学術情報基盤としての役割をますます高めていっている。

現在の附属図書館に求められている機能・役割については、「総合情報環構想2010」

（平成22年7月）で具体的に提言されている。「総合情報環構想2010」は、5つの環（利用者の環、サービスの環、データベースの環、インフラ基盤の環、組織的・人的サポートの環）という概念のもとに本学キャンパス環境の高度情報化に関するビジョンをまとめたものである。その中に大学図書館「ラーニングコモンズ」の構想が示されており、具体的なラーニングコモンズのイメージとともに、新たな教育方法とその教育効果について「ラーニングコモンズの導入による協調学修環境、個別指導環境を構築し、学修・研究活動の活性化を支援する。」と述べられている。

平成24年4月に着工された附属図書館（中央館）の全面改修（平成25年10月オープン）では「総合情報環構想2010」に沿うとともに文部科学省の新たな大学図書館像に定めるものとして、スーパーアクティブエリア、グループ学修室、ライティングサポートエリアからなるラーニングコモンズを新設した。ラーニングコモンズは、多様な情報源から収集するデジタル情報や紙媒体資料（図書）をもとにディスカッションやディベートを展開する主体的な学修の場であり、問題解決型の能動的学修（アクティブ・ラーニング）の実践の場となっている。

平成18年5月から正式運用を開始している「熊本大学学術リポジトリ」では、熊本大学の教育・研究活動から生み出された学術成果を収集し、デジタル形式で保存し公開している。日本国内の大学等の機関リポジトリに収録されているデータの一括検索が可能な国立情報学研究所の機関リポジトリ・ポータルJAIROとも連携している。学術リポジトリに登録された本学の研究成果は、研究者のみならず、広く一般市民や企業・公的機関へ公開され、学術情報が広く共有されることになり、本学の社会貢献の一助となっている。昨今の電子ジャーナル経費の高騰に対抗する手段として論文のオープンアクセス化が取りざたされており、機関リポジトリ（大学学術リポジトリ）への期待が高まっているところである。

本学の特色のあるコレクション創生の対象として旧藩政資料、阿蘇家文書、旧制五高資料、水俣病研究資料等が挙げられる。これらの資料の収集から発信については、附属図書館単独はもとより個人や学部レベルの研究者だけでは不可能であることから、大学としての立場の研究者と附属図書館との密接な連携により実施することとなった。これを受けて、平成11年10月に「学術資料調査研究推進室」が附属図書館に設置され、本学としてどのような教育・研究を行い、貢献したかが大学外から見える形でコレクションを収集・整理・保存し、発信することとなった。同推進室では、「水俣病関係学術資料の整理収

集」、「熊本大学が所蔵する古文書の分析・研究」及び「ラフカディオ・ハーンコレクションの研究」という3つのテーマのもとに調査研究が行われている。

更に附属図書館の特徴として特記すべきこととして、多くの貴重資料を所蔵又は寄託を受け保管していることが挙げられる。公益財団法人永青文庫から寄託を受けている細川家北岡文庫（永青文庫）及び阿蘇家文書は国指定の重要文化財である。このほか松井家文書、時習館文庫、八雲文庫等々いずれも貴重な教育研究資料である。附属図書館では、古文書資料業務の人材育成を目的に昭和60年度より、図書館職員有志による古文書勉強会を現在まで継続している。現在は、松井文庫「一紙文書」の翻刻と目録調査票作成作業を行っており、近々の一般公開を目指している。

また、附属図書館では、地域への文化貢献の1つとして、昭和59年度から毎年、秋の学園祭の時期に合わせて資料展及び講演会を開催している。第1回（昭和59年度）から第17回（平成12年度）までは「特殊資料展」として、第18回（平成13年度）からは「貴重資料展」として回を重ね、平成26年度には第30回を迎えることとなる。

3 組織の目的

インターネット上の多様な情報資源に対して、学生、教職員が容易にアクセス可能となり、学術情報流通においても、主要な海外学術雑誌が電子ジャーナルとして普及するなど図書館を取り巻く環境はめまぐるしく変化している。

図書館を取り巻くこのような状況の中、本学の「教育基本法及び大学設置法の精神に則り、総合大学として、知の創造、承継、発展に努め、知的、道徳的及び応用的能力を備えた人材を育成することにより、地域と国際社会に貢献することを目的とする」という理念に基づき、附属図書館では「熊本大学附属図書館は、熊本大学の理念に基づき、教育と研究活動を支える学術情報基盤としての不可欠な資料を収集・保管し、学内外の利用者に対して、効果的に提供することを目指す。」という理念を掲げて図書館運営の目標としている。

附属図書館では、目的を大きく「教育（学習）支援」「研究支援」「社会貢献」「国際化」「情報発信」に分類し、これらの目的を達成するため次のような具体的な目標を掲げている。①「教育（学習）支援」について、ICT（情報通信技術）を活用した教育を推進するため、図書館のICT環境を整備・強化するとともに学修相談・助言の支援体制を強化し、学生の自立的学修環境を整備する。②「研究支援」では、本学の研究成果を収集・保存し、ホームページ等で公開することや研究用データベース等の電子コンテンツの整備による支援を行う。③「社会貢献」の面からは、貴重資料の公開や公立図書館等との連携強化により、地域文化の向上に貢献することを目標とする。そして、④英語化を推進し、「国際化」に必要な環境整備を行い、⑤ホームページや広報誌等を充実し、社会に開かれた図書館として、積極的な「情報発信」を行う。

更に第二期中期目標期間には、これらの目標を達成するための具体的な到達点を示しており、全てについて期間中の目標達成が可能な状況である。

国際化に関しては、既に英語による図書館利用案内を整備し、現在、留学生の図書館利用促進のための方策について検討を進めているところである。附属図書館中央館に設置したラーニングコモンズでは留学生と日本人学生の交流が始まっている。図書館が本学学生の国際化促進の場となり、国際化に貢献できるような環境も整ってきた。

医学系分館にも平成24年度にグループ学修室を設置した。中央館のラーニングコモンズ共々、批判的・合理的な思考力、想像力と構想力、チームワーク力を培養し、従来の大学教育からの質的転換を実現する場となり、中央館・医学系分館・薬学部分館が連携して機能を充実させることにより本学学生の質の向上に貢献することを期待するものである。

Ⅱ 社会貢献の領域に関する自己評価書

1. 社会貢献の目的と特徴

附属図書館は、全学の社会貢献の目的に沿って「第二期中期目標」（平成22年）で、社会との連携に関する目標として、次の3点を掲げている。

- ① 附属図書館所蔵の貴重資料の公開について、企画を充実させた貴重資料展実施計画を実施する。
- ② 学術リポジトリ拡充計画に基づき、研究成果等の登録を増加させる。
- ③ 公立図書館等との連携を進める。

機関（学術）リポジトリでは、教員の論文アーカイブ作業をサポートするとともに、研究成果を広く社会に発信することで社会貢献を進めており、登録件数の増加を当面の目標としている。

中央館には、阿蘇家文書や細川家北岡文庫（永青文庫）をはじめとして国内外から注目されている非常に貴重な資料を所蔵しており、貴重資料展はこれら学術的な史資料を研究者と図書館の連携により、一般市民にも分かり易く紹介する大変特徴的で優れた公開事業である。

公共図書館等との連携を進めること及び公共図書館には所蔵されていない特色ある資料を市民に紹介すること、本学が所蔵する貴重資料を電子化して、記録価値の高いデジタルデータとして残すことやそれを公開することも社会貢献の目的である。

[想定する関係者とその期待]

附属図書館における社会貢献において想定する関係者は、インターネットを介することによって全世界に及んでいると言うことが出来る。地域における貢献では、一般利用者や他大学の学生が関係者である。大学図書館が保有する資料を開放することで大学の研究者とほぼ同等の共益を得ることが出来ることは、大きな魅力であり、一般社会に大きく期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

学術リポジトリでは、計画の策定、改訂及び関係システムの構築等を不断に実施することで、リポジトリ登録件数やダウンロード件数が顕著に増加した。

また例年実施している、貴重資料展及び公開講演会/永青文庫セミナーは回を重ねており参加者の過半数が一般市民であることは、地域貢献活動の成果である。

【改善を要する点】

地域貢献活動への参加者の満足度を判断するためアンケートを実施するなど、関係者の具体的な評価を得る方法を検討し、今後の活動に活かしていく必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 社会貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

（観点到る状況）

熊本大学学術リポジトリと貴重資料の美術館・博物館への貸出、貴重資料の電子化（資料C-1-1-1-1）活動の目的や方針は、学術リポジトリ運用指針（資料C-1-1-1-2）、貴重資料公開指針（資料C-1-1-1-3）により定められている。計画の詳細を決定するため、平成22年度に熊本大学学術リポジトリ拡充計画を策定した（資料C-1-1-1-4）。

上記の目的と計画は、熊本大学附属図書館及び熊本大学のホームページに掲載され（資

料 C-1-1-1-5) ている。

(資料 C-1-1-1-1) 貴重資料等の電子化計画 (抜粋)

貴重資料等の電子化計画

1. 背景と目的

本学が所蔵する永青文庫等の貴重資料は、世界的に見ても文化的な価値の高いものであり、電子化やデータベース化による記録や情報サービスは学術的価値のみならず地域社会への知的・文化的貢献になり得るところから、本学では、第二期中期目標・中期計画において「総合情報構想に基づき、図書館においては、永青文庫等の貴重資料の電子化等を推進する。」として、目標に掲げている。

附属図書館においては、阿蘇家文書(国指定重要文化財)をはじめとし、熊本大学拠点形成研究チームと文学部附属永青文庫研究センターが連携して解析した「十九世紀熊本藩住民評価・褒賞記録「町在」解析目録検索システムや貴重資料展の解説目録等を既にインターネット公開している。また、平成22年4月には、所有者、管理権者及利用者の諸権利の保護と当該資料の後世への価値ある継承の保証を目的に「熊本大学附属図書館貴重資料公開指針」を制定した。

このような状況を踏まえ、本学の知の一般社会への還元を推進するために貴重資料等の電子化計画を策定するものである。

2. 計画の概要

本学が所蔵する貴重資料を電子化し、記録価値の高いデジタルデータとして残す。また、画像や解説テキスト等をデータベース化し、できるだけ検索可能なものとして、学内外への情報提供サービスに供する。

3. 基本計画

- 本学が所蔵する貴重資料の冊子体目録を電子化し、インターネット公開する。
- 毎年開催する貴重資料展の解説目録を電子化し、インターネット公開する。
- 必要に応じて、所蔵する貴重資料の画像・解説テキスト等を電子化およびデータベース化し、インターネット公開する。

(出典：平成23年度第4回附属図書館運営委員会 資料2-4)

熊本大学学術リポジトリ運用指針

平成18年 4月18日

附属図書館運営委員会制定

(熊本大学学術リポジトリ)

1. 熊本大学附属図書館は、熊本大学(以下「本学」という。)において作成された電子的な学術研究成果を収集し、熊本大学学術リポジトリ(以下「リポジトリ」という。)に恒久的に蓄積・保存し、学内外に無償で発信・提供することにより、本学の学術研究の発展に資するとともに、社会に対する貢献を果たすものとする。

(登録)

2. 登録対象となる学術研究成果は以下の要件を満たすものとする。

- (1) 学術的な研究の成果であること。
- (2) 本学に所属する研究者が、その主要な部分を作成したもの
- (3) 電子的フォーマットで作成されていること
- (4) ネットワークを通じて配信できること

3. リポジトリに学術研究成果を登録できる者(以下「登録者」という。)は以下のとおりとする。

- (1) 本学に在籍する、または在籍したことのある教職員及び大学院生
- (2) その他館長が特に認めた者

(出典：図書館ユニット資料)

○熊本大学附属図書館貴重資料公開指針

(平成22年3月24日指針第1号)

(目的)

第1 この指針は、熊本大学(以下「本学」という。)が所蔵し、又は寄託された貴重資料のうち熊本大学附属図書館(以下「図書館」という。)において保管する資料の公開等に関し必要な事項を定め、本学の知の一般社会への還元を推進するとともに、所有権者、管理権者及び利用者の諸権利の保護を図り、もって当該資料の後世への価値ある継承を保証することを目的とする。

(定義)

第2 この指針において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 貴重資料 本学が所蔵する阿蘇家文書、寄託された永青文庫資料等で図書館運営委員会において認定されたものをいう。

(2) 所蔵資料 貴重資料のうち本学が所有するものをいう。

(3) 寄託資料 貴重資料のうち本学が管理を寄託されたものをいう。

(4) 複製 撮影、デジタル情報の保存、復刻及び翻刻をいう。ただし、模写を除く。

(5) 頒布 貴重資料の全部又は一部若しくは作品の一部分の複製物を配布することをいう。

(6) ネットワーク インターネット又は学内等のローカルエリアネットワークをいう。

(7) 公開 閲覧、貸出、複製及び頒布のための供与並びに頒布及びネットワークを介してのデジタル情報の供与をいう。

(適用範囲)

(出典：附属図書館・規則)

(資料 C-1-1-1-4) 「熊本大学学術リポジトリ」 拡充計画 (抜粋)

「熊本大学学術リポジトリ」 拡充計画

1. 背景と目的

本学は、第二期中期目標・中期計画において「地域振興の中核大学として、熊本大学の資源と知的活動を活用し、また地域の諸機関と連携し、地域に貢献する。」とし、社会との連携や社会貢献に関する目標を掲げている。

附属図書館においては、平成18年4月に「熊本大学学術リポジトリ運用指針」を策定し、同年5月に「熊本大学学術リポジトリ」の正式公開を果たした。その後、リポジトリ登録による研究成果の公開を積極的に推進しており、研究成果を社会へ還元するという大学の説明責任を果たす役割の一部を担っている。

しかし、実際は、図書館から登録の許可をとって図書館員が投稿をしているのが現状であり、教員からの投稿は大学の規模から考えても多い方とは言えない。

このような状況を踏まえ、リポジトリの存在意義を高めるためにさらなるリポジトリの拡充計画を策定するものである。

2. 計画の概要

大学として、研究成果公開を原則とすることが望ましいが、学術雑誌等への掲載や特許申請などの兼ね合いにより強制するのは現実的には難しい。しかし、リポジトリの意義・利点などを積極的に広報したり、学内システム間の連携又は他大学との連携を図ることで Open Access 活動の意義を理解していただき、自発的に公開する意識を持ってもらう。

3. 基本計画

- 「熊本大学学術リポジトリ」拡充のために以下のとおり実施する。
 - ・コンテンツ（雑誌掲載論文、プレプリント、科研費報告書、学会発表資料、紀要掲載論文及び博士論文等）登録の促進
 - ・大学評価データベースシステム登録データとのリンク形成の広報活動による登録の促進
 - ・チラシ・パンフレット等の配布、電話・メール・公文書等による教員への個別依頼
 - ・文献検索データベース Scopus メールアラートを活用した最新の学術雑誌掲載論文についての登録許諾及び許諾後の登録。
- リポジトリ要員の人材育成を目的として、学外で実施される研修会等への積極的参加。

(出典：図書館ユニット資料)

(資料 C-1-1-1-5) ホームページ公開アドレス

資料 C-1-1-1-2 熊本大学附属図書館学術リポジトリ運用指針
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/reposit/indicator.pdf>

資料 C-1-1-1-3 熊本大学附属図書館貴重資料公開指針 (熊本大学)
<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000708.htm>

(出典：附属図書館ホームページ、熊本大学ホームページ)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

社会貢献活動の計画や方針は、熊本大学及び附属図書館ホームページに掲載し公表・周知されている。

学術リポジトリ計画達成のために、学術リポジトリの詳細を説明したホームページ・Q&A ページを作成し、研究成果の登録促進パンフレット配布やメールによる広報、説明会の開催、中央館では新たにデジタルサイネージ（電子掲示板）を用いた広報を行っている。

社会貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針を定めており、新たな広報を開始した状況から、期待される水準にあると判断できる。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点到に係る状況)

熊本大学学術リポジトリ拡充計画(資料 C-1-1-1-4 (9頁))に従って、平成 22 年度から 25 年度にかけては、合計 4,677 件の登録を完了した(資料 C-1-2-1-1)。平成 22 年度には大学評価データベース Tsubaki から自動でリポジトリ登録用の PDF ファイルが附属図書館に届くように設定した(資料 C-1-2-1-2)。平成 23 年度以降は学外論文データベース Scopus と連携し、リポジトリに登録可能な研究成果の情報を図書館が継続的かつ自動的に入手できるように設定した(資料 C-1-2-1-3)。平成 24 年度は容易に教員へ登録依頼を行う論文登録依頼システムを試作した(資料 C-1-2-1-4)。平成 25 年度は博士論文の原則電子化に伴う学内外連携(リポジトリシステム改修)を行った。

また、学術リポジトリの登録件数が平成 24 年度に 1 万件を突破したことを記念し、さらに登録数を増加させる目的で研究者インタビュー(資料 C-1-2-1-5)を実施した。

附属図書館は、阿蘇家文書、松井文庫、細川家北岡文庫(永青文庫)など、国指定重要文化財を含む大変貴重な古文書を多数所蔵している(資料 C-1-2-1-6)。これらの貴重資料は貸出を実施しており、過去 4 年間の状況は資料のとおりである(資料 C-1-2-1-7)。

貴重資料の電子化では、平成 23 年度に阿蘇家文書(<http://kijima.lib.kumamoto-u.ac.jp/asoke/>)を、平成 24 年度に西園寺家文書の目録データ(http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/sites/default/files/saionji_mokuroku.html)を図書館ホームページで公開した。また、貴重資料展の解説目録は熊本大学学術リポジトリを通じて全て公開している(資料 C-1-2-1-8)。

(資料 C-1-2-1-1) 学術リポジトリコンテンツ登録件数推移

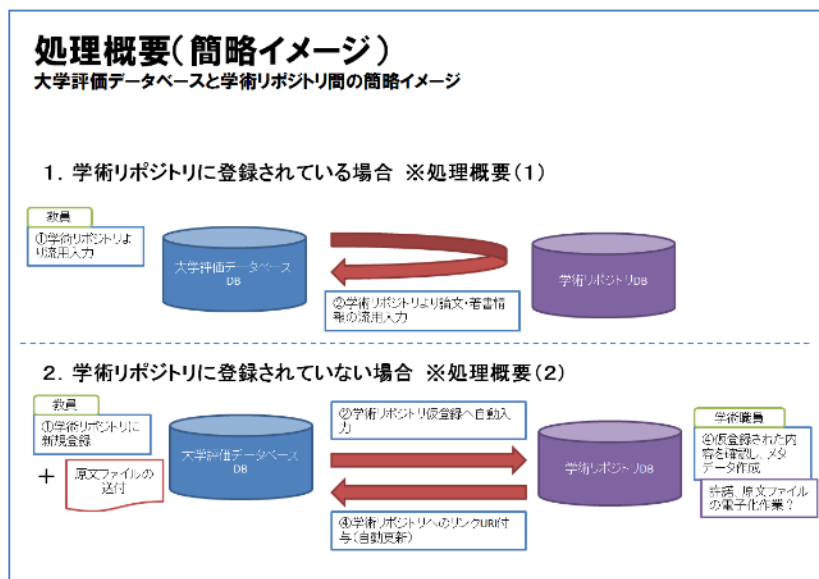
(単位：件)

	H21	H22	H23	H24	H25
登録累計	7,365	8,421	9,954	11,074	12,042
年間登録数	1,249	1,056	1,533	1,120	968

※登録累計は、各年度末の件数

(出典：図書館ユニット資料)

(資料 C-1-2-1-2) TSUBAKI とリポジトリシステムの連携 (概要イメージ図)



(出典：図書館ユニット資料)

(資料 C-1-2-1-3) 研究成果の自動連絡システム (Scopus との連携)

概要

1. 学術雑誌 (主に外国雑誌) の論文の情報がデータベース (Scopus) に登録される。
2. 1 の投稿者の所属が「Kumamoto University」の場合、著者、論文タイトル、掲載雑誌情報が担当者宛に届く (下図のとおり)

In the overview below, you can see the 12 new results for this Search Alert:
=====

1. Abe, Y., Fujise, N., Fukunaga, R., Nakagawa, Y., Ikeda, M.
Comparisons of the prevalence of and risk factors for elderly depression between urban and rural populations in Japan (2012) *International Psychogeriatrics*, 24 (8) pp. 1235-1241.
<http://www.scopus.com/alert/results/record.url?AID=505213&ATP=search&id=2-s2.0-84862296738&origin=SingleRecordEmailAlert>

2. Kaneko, K., Chuang, V.T.G., Ito, T., Suenaga, A., Watanabe, H., Maruyama, T., Otagiri, M.
Arginine 485 of human serum albumin interacts with the benzophenone moiety of ketoprofen in the binding pocket of subdomain III A and III B (2012) *Pharmazie*, 67 (5) pp. 414-418.
<http://www.scopus.com/alert/results/record.url?AID=505213&ATP=search&id=2-s2.0-84862306945&origin=SingleRecordEmailAlert>

(出典：図書館ユニット資料)

(資料 C-1-2-1-4) 論文登録依頼システム

熊本太郎さんに、登録依頼メールを送ります					
氏名	リポメール	所属	備考	作成日	訂正
熊本太郎 クマダイタロウ	<input type="checkbox"/> 件 denjo@lib.kumamoto-u.ac.jp	図書館		20140731	<input type="checkbox"/> 訂正
Scopus					
B. Nohara, K., Fujiyama, A., Yamano, S. fraction regulating analytic method of Allium (2012) Chemical and Pharmaceutical Bulletin, 99 (9) pp. 999-999. http://www.scopus.com/alert/results/record.url?AID=*****ATP=search&id=-45465467**&origin					
↑ Scopusアラート貼り付け専用 / または ↓ のどちらか					
論文名:					
執筆者:					
掲載誌:					
※掲載誌の巻号やページの情報は、「」で区切って入れてください					
この論文は <input type="checkbox"/> 出版者版OK / <input type="checkbox"/> 出版者版OK+原稿送信依頼 / <input type="checkbox"/> 出版者版OK+紙で送付依頼 / <input type="checkbox"/> 著者最終稿(原稿送信依頼) / <input type="checkbox"/> 記載しない(記事等)					
エンバーゴは? 12ヶ月 (ない場合は空白または0)					
送信プレビューへ					

(出典：図書館ユニット資料)

(資料 C-1-2-1-5) リポジトリ 1 万件突破記念 研究者インタビュー

リポジトリ1万件突破記念 研究者インタビュー

2012/07/09

附属図書館では、本学教員の研究成果を収集し、全世界に向けて発信する「熊本大学学術リポジトリ」を運用しています。

熊本大学学術リポジトリ公開から6年目を迎えた平成24年5月、**リポジトリ登録論文数が1万件に到達**しました。1万件目の論文は、大学院自然科学研究科（工学系・大学院）准教授 富永昌人先生の論文「**酵素修飾ナノ構造炭素電極とバイオ燃料電池**」でした。

1万件突破を記念し、富永先生に突破記念インタビューを行いました。下記のサイトから、ぜひご覧ください。

→[熊本大学附属図書館 研究者インタビュー](#)

※熊本大学学術リポジトリには教員の研究成果に加えて博士論文や旧制第五高等学校校友会誌「龍南会雑誌」の記事等も収録しています。

(出典：附属図書館ホームページ)

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/836>

(資料 C-1-2-1-6) 細川家文書・国指定重要文化財

109 平成 25 年 6 月 19 日 水曜日 官 報 (号外第 128 号)	
<p>○文部科学省告示第百十三号 文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第二十七条第一項の規定により、次の表に掲げる有形文化財を重要文化財に指定する。 平成二十五年六月十九日 (古文書の部)</p>	
<p>嘉元記 万昆嶋主解(天平字二年七月廿八日 紙背写千巻経断食物用帳 安祥寺資財帳 至徳二年七月日寶書写奥書</p>	<p>一冊 一通 一卷</p> <p>独立行政法人国立文化財機構(東京国立博物館保管) 独立行政法人国立文化財機構(奈良国立博物館保管) 国立大学法人京都大学</p>
<p>細川家文書(二百六十六通) 附文書箱 豊前国宇佐宮松園</p>	<p>十一卷、二十三幅、二冊、百八十通 公益財団法人永青文庫 宗教学法人宇佐神宮</p>
<p>○文部科学省告示第百十四号 文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第二十七条第一項の規定により、次の表に掲げる有形文化財を重要文化財に指定する。 平成二十五年六月十九日 (考古資料の部)</p>	
<p>北海道船泊遺跡出土品 一、骨角牙貝製品 七百五十五点 一、土器 四点 一、石器・石製品 十四点 一、骨角牙貝製品 (以上葛坑群出土) 二十二点 一、土器 五点 一、石器・石製品 百七点 (以上作楽場跡出土) 一、骨角牙貝製品 三百七十四点 一、土器 三十三点 一、石器・石製品 三百二点 (以上包含層出土)</p>	<p>礼文町(礼文町町民活動総合センター保管)</p>
<p>新潟県村尻遺跡出土品 一、土偶形容器 一点 一、土器 十四点 一、骨彫飾 二点 附石片 一点</p>	<p>新発田市</p>

(出典：官報 号外第 128 号 109 頁 平成 25 年 6 月 19 日発行)

(資料 C-1-2-1-7) 貴重資料・貸出リスト

No.	年度	貸出先	展覧会名	会期	点数	備考
1	22年度	熊本市現代美術館	へるんさんの秘めごと展	2010.6.26～2010.9.5	10	ハーソコレクション
2	22年度	東京・永青文庫(目白台)	平成22年度夏季展「神と仏」	2010.6.26～2010.9.26	12	永青文庫
3	22年度	熊本県立美術館	大名細川家のよろいの美	2010.7.16～2010.9.26	4	永青文庫
4	22年度	熊本県立美術館	没後400年・古今伝授の間改修記念 細川幽斎展	2010.10.6～2010.12.19	24	永青文庫
5	22年度	熊本近代文学館	小泉八雲の熊本時代を明らかにした丸山学と木下順二の子弟コンピ展	2010.9.21～2010.10.20	1	木下順二書簡
6	22年度	東京・永青文庫(目白台)	平成22年度冬季展覧会「細川幽斎」	2011.1.8～2011.3.13	13	永青文庫
7	22年度	熊本県立美術館	ガラシャと細川家の女性たち展	2011.1.7～2011.2.27	8	永青文庫
8	22年度	熊本県立美術館	永青文庫の至宝展	2011.3.8～2011.5.8	2	永青文庫
9	23年度	京都府京都文化博物館	細川家と京都	2011.7.9～2011.9.4	8	永青文庫
10	23年度	八代市立博物館	大妙見祭展-華ひらく祭礼風流-	2011.10.28～2011.12.4	2	永青文庫
11	23年度	熊本県立美術館	参勤交代 大名たちの大移動展	2011.10.4～2011.12.18	10	永青文庫
12	23年度	京都国立博物館	細川家の至宝: 珠玉の永青文庫コレクション	2011.10.8～2011.11.23	20	永青文庫(うち7点は九博まで継続)
13	23年度	九州国立博物館	細川家の至宝: 珠玉の永青文庫コレクション	2012.1.1～2012.3.4	10	永青文庫(うち7点は京博から継続)
14	23年度	羽田ディスカバリーミュージアム	生と死をもてなす四十九日間-忠臣蔵展	2011.10.6～2011.12.16	10	永青文庫
15	23年度	松江歴史館	松江藩主京極忠高の挑戦	2011.9.17～2011.10.30	1	永青文庫
16	23年度	八代市立博物館	没後400年 戦国武将松井康之	2012.1.17～2012.3.18	2	永青文庫
17	23年度	羽田ディスカバリーミュージアム	四百年前の春 武将たちの嗜	2012.1.21～2012.4.15	1	永青文庫
18	23年度	熊本県立美術館	生誕450年記念 加藤清正展	2012.7.20～2012.9.2	1	西厳殿寺資料
19	23年度	熊本県立美術館	細川家の歴史と美	2012.4.28～2012.7.1	13	永青文庫
20	24年度	羽田ディスカバリーミュージアム	信長・秀吉・家康〜権力者達の書状展	2012.4.25～2012.6.24	9	永青文庫
21	24年度	東京・永青文庫(目白台)	細川家に残る江戸の天文学	2012.9.25～2012.12.24	12	永青文庫
22	24年度	京都国立博物館	大出雲展	2012.7.28～2012.9.9	1	永青文庫
23	24年度	八代市立博物館	八代城主・加藤正方の遺産	2012.10.26～2012.12.2	2	永青文庫
24	24年度	羽田ディスカバリーミュージアム	殿様の博物学	2012.10.19～2013.1.14	6	永青文庫
25	24年度	羽田ディスカバリーミュージアム	細川ガラシャ〜大名家のお姫様〜	2013.1.下旬～2013.4.中旬	2	永青文庫
26	24年度	京都文化博物館	細川家永青文庫コレクション展3	2012.12.1～2013.1.16	11	永青文庫
27	24年度	熊本県立美術館	細川家の婚礼展	2012.10.2～2012.12.16	4	永青文庫
28	24年度	熊本県立美術館	秋の名品コレクション展	2012.9.11～2012.10.28	8	永青文庫
29	24年度	熊本県立美術館	藩校時習館物語展	2013.1.9～2013.3.24	14	永青文庫
30	24年度	文化庁	(目的) 指定調査のため	(貸出期間) 2012.11.28～201	344	永青文庫
31	24年度	熊本県立美術館	細川家の歴史と美(仮)	2013.4.2～2013.6.16	9	永青文庫
32	25年度	岡山県立美術館	永青文庫 細川家の名宝展	2013.7.19～2013.8.25	6	永青文庫
33	25年度	熊本県立美術館	幕末の肥後-黒船来航の衝撃-	2013.10.1～2013.12.23	20	永青文庫
34	25年度	東京・永青文庫(目白台)	特別公開展示	2013.10.20～2013.10.21	5	永青文庫
35	25年度	東京・永青文庫(目白台)	特別公開展示	2013.10.20～2013.10.21	1	永青文庫
36	25年度	八代市立博物館	秀吉が八代にやって来た	2013.10.25～2013.12.1	4	永青文庫
37	25年度	東京・永青文庫(目白台)	忠臣蔵と細川家	2013.12.14～2014.3.23	11	永青文庫
38	25年度	京都文化博物館	南北朝・室町時代の武家文書	2014.02.11～2014.3.23	39	永青文庫
39	25年度	東京・永青文庫(目白台)	洋人音楽図屏風と大航海時代MOMOYAMA	2014.3.29～2014.6.29	5	永青文庫
			計		665	(点)

(出典: 図書館ユニット資料)

(資料 C-1-2-1-8) 貴重資料展・解説目録例 (抜粋)

解説目録

熊本大学附属図書館(中央館)リニューアルオープン記念
第29回 熊本大学附属図書館貴重資料展
永青文庫資料にたどる
物語史と絵
期間 平成25年11月2日(土)~4日(月)
会場 熊本大学附属図書館1階古文書閲覧室
入場無料

1. 竹塹物語 写本 巻第一冊 一〇二七四
最初期の作り物で、源朝の乱に於ける一帯の民衆の苦悶と悲劇を述べ、
それ以後の竹塹の歴史が描かれて見出し、その土地を成り立たせた
り、五人の義士の物語をこころよく語り、その月の日に輝く物語、八位
承の天女口説き下敷に、人間生活の世帯を加え、竹塹の歴史を
描き出した作品となつて、竹塹の歴史を伝えることにも多かつた
が、本は江戸時代初期の写本である。

又、伊勢物語 写本
巻第一冊 三三三
四十一頁の写本で、
源朝の乱に於ける一帯の民衆の苦悶と悲劇を述べ、
それ以後の竹塹の歴史が描かれて見出し、その土地を成り立たせた
り、五人の義士の物語をこころよく語り、その月の日に輝く物語、八位
承の天女口説き下敷に、人間生活の世帯を加え、竹塹の歴史を
描き出した作品となつて、竹塹の歴史を伝えることにも多かつた
が、本は江戸時代初期の写本である。

2. 竹塹物語 写本 巻第二冊 一〇二七五
最初期の作り物で、源朝の乱に於ける一帯の民衆の苦悶と悲劇を述べ、
それ以後の竹塹の歴史が描かれて見出し、その土地を成り立たせた
り、五人の義士の物語をこころよく語り、その月の日に輝く物語、八位
承の天女口説き下敷に、人間生活の世帯を加え、竹塹の歴史を
描き出した作品となつて、竹塹の歴史を伝えることにも多かつた
が、本は江戸時代初期の写本である。

又、伊勢物語 写本
巻第二冊 三三三
四十一頁の写本で、
源朝の乱に於ける一帯の民衆の苦悶と悲劇を述べ、
それ以後の竹塹の歴史が描かれて見出し、その土地を成り立たせた
り、五人の義士の物語をこころよく語り、その月の日に輝く物語、八位
承の天女口説き下敷に、人間生活の世帯を加え、竹塹の歴史を
描き出した作品となつて、竹塹の歴史を伝えることにも多かつた
が、本は江戸時代初期の写本である。

3. 水戸物語 写本 巻第一冊 一〇二七六
源朝の乱に於ける一帯の民衆の苦悶と悲劇を述べ、
それ以後の竹塹の歴史が描かれて見出し、その土地を成り立たせた
り、五人の義士の物語をこころよく語り、その月の日に輝く物語、八位
承の天女口説き下敷に、人間生活の世帯を加え、竹塹の歴史を
描き出した作品となつて、竹塹の歴史を伝えることにも多かつた
が、本は江戸時代初期の写本である。

又、伊勢物語 写本
巻第一冊 三三三
四十一頁の写本で、
源朝の乱に於ける一帯の民衆の苦悶と悲劇を述べ、
それ以後の竹塹の歴史が描かれて見出し、その土地を成り立たせた
り、五人の義士の物語をこころよく語り、その月の日に輝く物語、八位
承の天女口説き下敷に、人間生活の世帯を加え、竹塹の歴史を
描き出した作品となつて、竹塹の歴史を伝えることにも多かつた
が、本は江戸時代初期の写本である。

4. 竹塹物語 写本 巻第二冊 一〇二七七
最初期の作り物で、源朝の乱に於ける一帯の民衆の苦悶と悲劇を述べ、
それ以後の竹塹の歴史が描かれて見出し、その土地を成り立たせた
り、五人の義士の物語をこころよく語り、その月の日に輝く物語、八位
承の天女口説き下敷に、人間生活の世帯を加え、竹塹の歴史を
描き出した作品となつて、竹塹の歴史を伝えることにも多かつた
が、本は江戸時代初期の写本である。

又、伊勢物語 写本
巻第二冊 三三三
四十一頁の写本で、
源朝の乱に於ける一帯の民衆の苦悶と悲劇を述べ、
それ以後の竹塹の歴史が描かれて見出し、その土地を成り立たせた
り、五人の義士の物語をこころよく語り、その月の日に輝く物語、八位
承の天女口説き下敷に、人間生活の世帯を加え、竹塹の歴史を
描き出した作品となつて、竹塹の歴史を伝えることにも多かつた
が、本は江戸時代初期の写本である。

(出典：附属図書館ホームページ)

<http://reposit.lib.kumamoto-u.ac.jp/bitstream/2298/29441/1/kimokuroku-2013.pdf>

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

熊本大学学術リポジトリ拡充計画に従って学術成果の登録を進めている。貴重資料の美術館等への貸出も4年間で39館、貸出点数は665点にのぼる。貴重資料の電子化においても、熊本大学貴重資料公開指針に従い活動している。

上記のとおり計画に基づいた活動を実施し、実績を積み重ねていることから期待される水準にあると判断できる。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

学術リポジトリは毎年件数が増加している(資料C-1-3-1-1)。

貴重資料の貸出は全国からの要望に応え(資料C-1-2-1-7(14頁))、平成24年度から25年度にかけては改修工事中にも関わらず、事務スペース内に場所を確保し貸出返却作業を実施した。

貴重資料の電子化も計画に則って進めており、遠隔地の利用者にも検索・閲覧できる環境を整えている(資料C-1-2-1-8(15頁))。

(資料 C-1-3-1-1) 学術リポジトリ PDF ダウンロード(DL)件数

(単位：件)

	H21(参考)	H22	H23	H24	H25
年間 DL 数	256,156	280,299	341,512	445,614	519,628
DL 数累計	581,009	861,308	1,202,820	1,648,434	2,168,062

(出典：図書館ユニット資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

学術リポジトリは一日平均で約 1,423 件、本学の研究成果が利用され、研究成果が大量に利用されていることと、ダウンロード件数が年々増加していることから満足度は高いことがわかる。

貴重資料の公開は、平成 24 年度後半から 25 年度前半にかけての改修工事期間中も、貸出に応じた結果、貸出件数は特に減少することなく推移している。

上記により、期待される水準にあると判断できる。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点到に係る状況)

社会貢献活動の状況を検証する組織は、附属図書館運営委員会である。(資料 C-1-4-1-1) 当委員会に事業の実施報告を行い、学内選出委員から改善のための意見を聴取している。

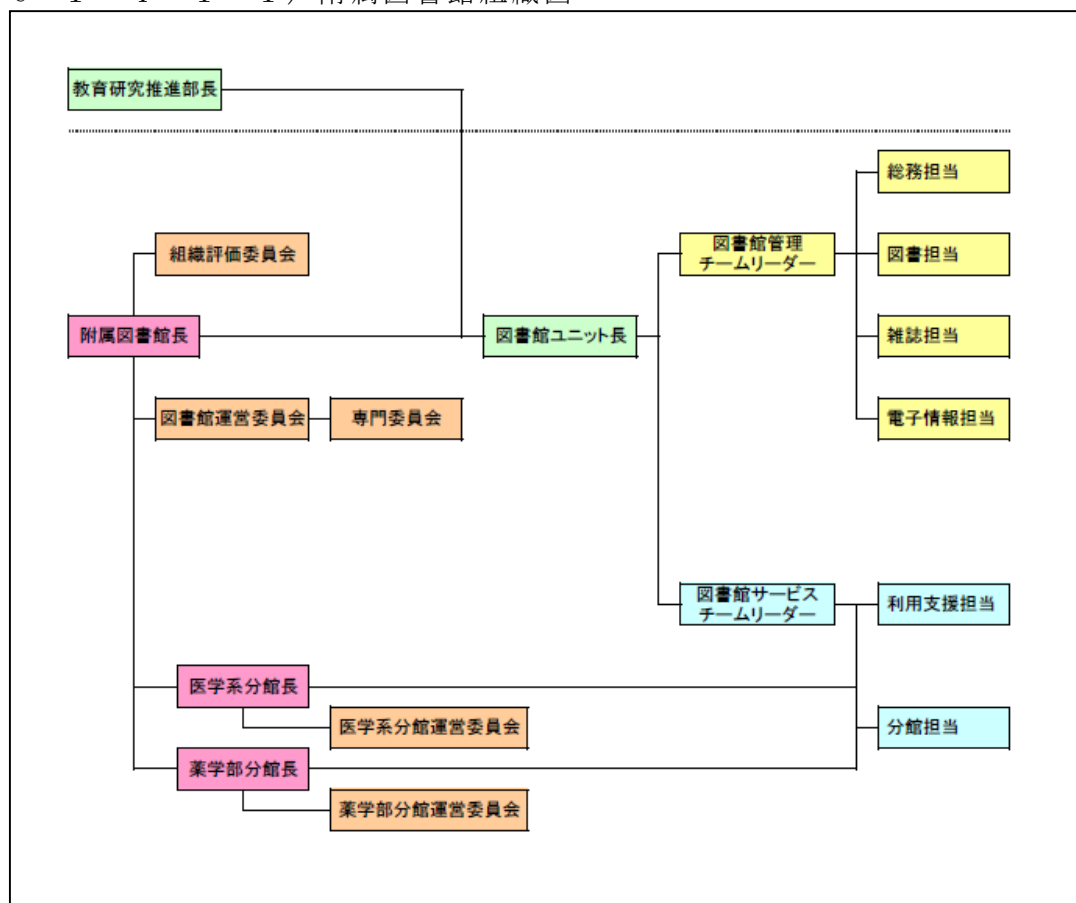
学術リポジトリでは、平成 24 年度に、図書館蔵書検索システム OPAC からもリポジトリの論文が検索できるように改善した(資料 C-1-4-1-2)。平成 25 年度は学位規則改正に伴う博士論文の原則電子化に対応したことで、本学の博士論文を広く社会に発信できるようになった。

各学部において発行している大学紀要の電子化を働きかけ、計 15 タイトルについて、投稿規定等に原則電子化が織り込まれた(資料 C-1-4-1-3)。

図書館ホームページを平成 24 年 4 月リニューアルし、新たに英語版のページを充実させ国際化に対応した(資料 C-1-4-1-4)。

貴重資料の貸出(授受)に利用する場所として、改修工事によって空調完備の環境の良い古文書閲覧室を 3 部屋設けた(資料 C-1-4-1-5)。

(資料 C-1-4-1-1) 附属図書館組織図



(出典：附属図書館ホームページ)

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/aboutus/organization>

(資料 C-1-4-1-2) OPAC からリポジトリ論文が検索可能に (OPAC 連携)

検索結果: 145 件

1. 論文

HIV/AIDS看護実践における倫理的課題
 木村, 真知子; キムラ, マチコ; Kimura, Machiko
 出版情報: *先端倫理研究* 4 pp.75-93, 2009-03. 熊本大学
 リポトリURL: <http://hdl.handle.net/2298/11757>
 概要: この論文においては、看護者が日常の看護場面で経験するHIV/AIDS看護実践の特有の問題を明らかにし、倫理的問題への解決策や課題を見いだすことを試みる。
2. 論文

看護実践と看護記録の有機的連携：総まとめ
 森田, 敏子; 松永, 保子; モリタ, トシコ; マツナガ, ヤスコ; Morita, Toshiko; Matsunaga, Yasuko
 出版情報: *月刊看護きらく* 16 pp.3-12, 2007-03-25. 日経研出版
 リポトリURL: <http://hdl.handle.net/2298/11573>
 概要: 基礎固め編と指導ポイント編を振り返り、総まとめとする。
3. 論文

高度看護実践とその評価に関する多施設共同研究の現状と課題
 宇佐美, しおり; ウサミ, シオリ; Shiori, Usami
 出版情報: *日本看護科学会誌* 30 pp.111-112, 2010-06-21. 日本看護科学学会
 リポトリURL: <http://hdl.handle.net/2298/20039>
4. 図書

がん看護実践シリーズ
 出版情報: 東京: メヂカルフレンド社
 子書誌情報: 1 *脳腫瘍* / 洪井社一郎編集; 野村和弘, 平出朝子監修. メヂカルフレンド社, 2007 [他の 12 件を見る](#)

(出典：図書館ユニット資料)

(資料 C-1-4-1-3) 学術リポジトリで電子化された紀要一覧

継続刊行中の大学紀要等一覧		
刊行物名	電子化について	発行部署
1 Physics reports of the Kumamoto University	投稿規程明記	理学部(物理)
2 熊本大学教育学部紀要 自然科学	投稿規程明記	教育学部
3 熊本大学教育学部紀要 人文科学	投稿規程明記	教育学部
4 教育工学センター紀要	投稿規程明記	教育学部附属教育実践総合センター(旧 教育工学センター)
5 熊本大学教育実践研究	投稿規程明記	教育学部附属教育実践総合センター
6 熊本大学社会文化研究	投稿規程明記	大学院社会文化科学研究科
7 熊本法学	投稿規定明記	熊本大学法学会
8 熊本大学医学部保健学科紀要	投稿規程明記	医学部保健学科
9 先端倫理研究：熊本大学倫理学研究室紀要	投稿規程明記	大学院社文研 倫理学研究室
10 文学部論叢	投稿規程明記	文学部
11 熊本大学政策研究	投稿規程明記	熊本大学政策創造研究教育センター
12 国際化推進センター紀要	投稿規程明記	国際化推進センター
14 熊本大学英語英文学	掲載可(メール依頼)	熊本大学英文学会
15 熊本地学会誌	投稿規程明記	教育学部地学研究室
16 熊本大学工学部研究報告	未	工学部
17 熊本ロージャーナル	未	大学院法書養成研究科
18 国語国文研究と教育	未	教育学部国文学会
19 国語国文学研究	未	文学部国語国文学会
20 大学教育年報	未	大教センター、大学教育機能開発総合研究センター

(出典：図書館ユニット資料)

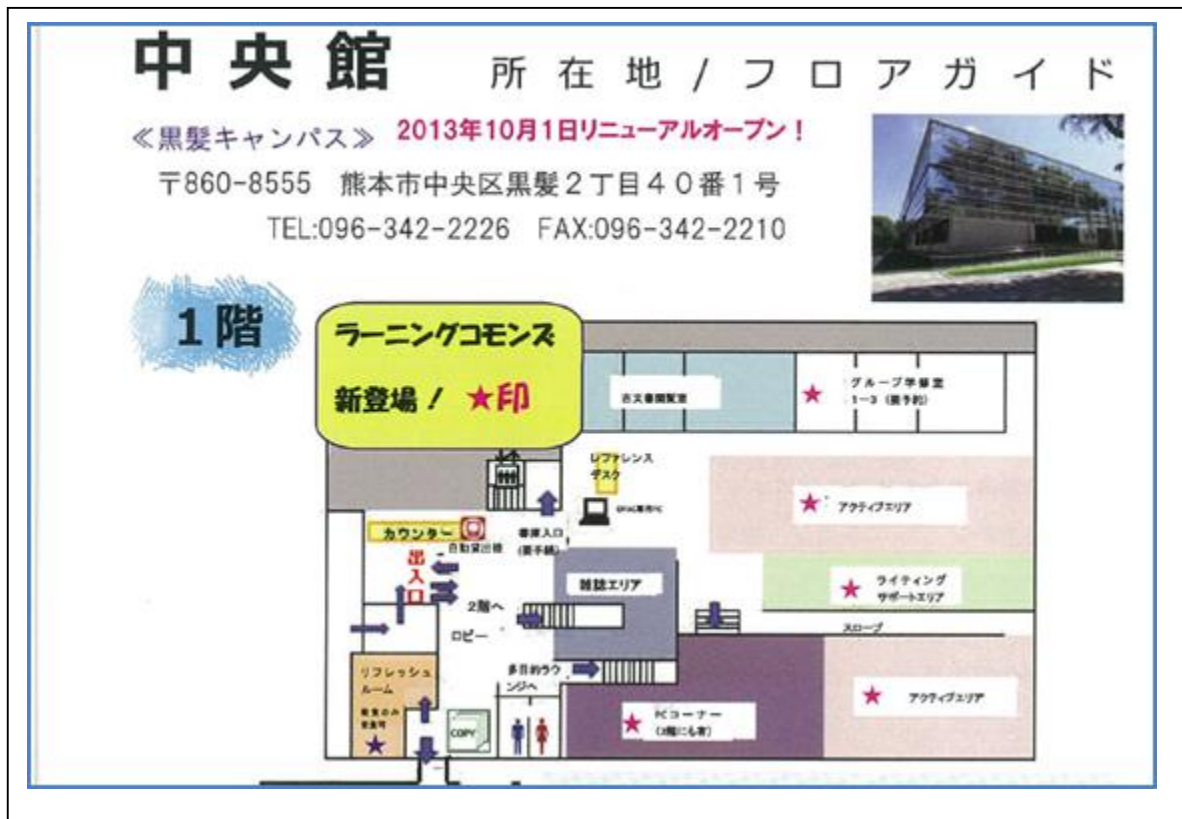
(資料 C-1-4-1-4) リニューアル後・附属図書館ホームページ

The screenshot shows the Kumamoto University Library homepage. At the top, there is a navigation bar with links for 'HOME', '図書館利用案内', '情報検索サポート', 'コレクション', '図書館について', and '問い合わせ・申し込み'. Below this, a main announcement reads '図書館ホームページが新しくなりました' (Library homepage has been updated). The announcement is dated 2012/04/02 and lists three main updates: 1. Screen renewal, 2. English version page release, and 3. Online service expansion. A sidebar on the left contains links for 'My Library', 'Re-library', 'Repository', '図書館ガイダンス', and '旬の情報'. On the right, there is a '月間アーカイブ' (Monthly Archive) section with links for each month from August 2014 to July 2014. At the bottom, a banner for the April 2012 update is visible, with the URL <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp>.

(出典：附属図書館ホームページ)

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/681>

(資料 C-1-4-1-5) 改修後の古文書閲覧室 3 部屋



(出典：図書館ユニット資料)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

大学紀要等については、近年は紙媒体での発行を抑える大学が増えてきている。本学でも電子発行が増加することで、紙媒体の印刷コスト等を抑えるとともに、速く確実に必要とする利用者へ届けることができる。学術リポジトリの持つこのような利点を最大限活かすことが出来るよう、本学の状況はもちろん社会の情勢等を踏まえて随時改善を行ってきた。同様に図書館ホームページも多機能性をもつ新しいサイトへリニューアルした。

貴重資料は、改修工事により空調完備の古文書閲覧室 3 部屋を設け、貸出・閲覧時の作業環境を改善した。

上記により、期待される水準を上回ると判断できる。

分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

附属図書館の地域貢献活動の計画・方針は、理念と目標・計画(資料 C-2-1-1-1)、貴重資料公開指針(資料 C-1-1-1-3 (8頁))により定められている。

貴重資料展の計画はメディアへ名義後援を依頼し、ポスターやちらしを作成し配付している(資料 C-2-1-1-2)。

一般市民を対象（資料 C-2-1-1-3）に、図書館を開放して閲覧・貸出サービスを実施しており、図書館ホームページに「利用のための手続き（学外者）」（資料 C-2-1-1-4）を掲載して周知を図っている。

上記の目的と計画は、熊本大学附属図書館及び熊本大学のホームページに掲載され（資料 C-2-1-1-5）ている。

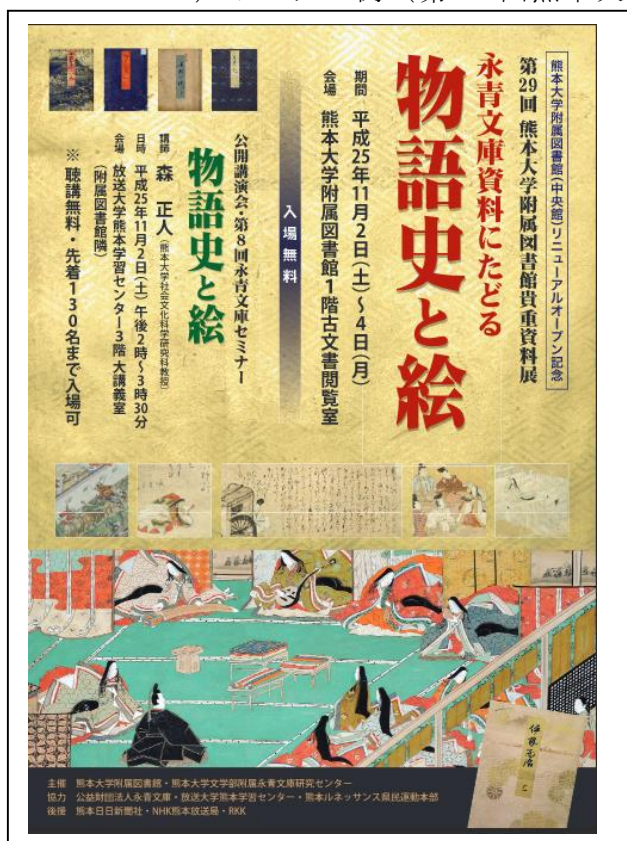
公立図書館等との連携についても第二期中期目標に掲げて強化を図っている。

（資料 C-2-1-1-1） 理念と目標・計画（抜粋）

理念と目標・計画		
理念		
熊本大学附属図書館は、熊本大学の理念に基づき、教育と研究活動を支える学術情報基盤としての不可欠な資料を収集・保管し、学内外の利用者に対して、効果的に提供することを目指します。		
目標・計画		
社会連携	目標	貴重資料の公開や公立図書館等との連携強化により、地域文化の向上に貢献します。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 貴重資料展・講演会の継続実施及び充実 ▶ 貴重資料等の電子的公開 ▶ 公立図書館との相互検索の実現
*項目は社会連携とあるが、地域貢献活動を示す。		

（出典：附属図書館ホームページ）

(資料C-2-1-1-2) ポスター例 (第29回熊本大学附属図書館貴重資料展)



(出典：図書館ユニット資料)

(資料C-2-1-1-3) 熊本大学附属図書館利用規則

○熊本大学附属図書館利用規則

(平成16年4月1日規則第217号)

改正 平成16年12月22日規則第299号 平成19年3月30日規則第217号
 平成20年3月28日規則第119号 平成22年3月24日規則第36号
 平成23年3月24日規則第58号 平成25年9月2日規則第152号

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本大学附属図書館規則(平成16年4月1日制定)第9条の規定に基づき、熊本大学附属図書館(以下「図書館」という。)の利用に関し必要な事項を定める。

(利用者の範囲)

第2条 図書館を利用することができる者(以下「利用者」という。)は、次に掲げる者とする。

- (1) 国立大学法人熊本大学の役員及び職員(以下「役職員」という。)
- (2) 熊本大学(以下「本学」という。)の学生
- (3) 本学の名誉教授
- (4) 本学を卒業又は本学大学院の課程を修了した者
- (5) 学外者(前2号に掲げる者を除く。)

(出典：附属図書館・規則)

(資料 C-2-1-1-4) 利用のための手続き (学外者)

Kumamoto University
熊本大学附属図書館

HOME 図書館利用案内 情報検索サポート コレクション 図書館について 問い合わせ・申し込み

ホーム > 図書館利用案内 > 学外の方へ

簡易検索 熊大蔵書検索 検索

図書館利用案内

- 開館時間・サービス・休館日
- 学生・教職員の方へ
- 学外の方へ
 - 利用のための手続き (学外者)
 - 貸出・返却・予約
 - 館内資料を複写する
 - 館内設備を利用する
 - 文献コピーの郵送サービス (学外者向け)
 - 貴重資料の利用 (学外者)
 - 永青文庫の利用 (学外者)
 - レファレンス (質問・調査依頼)
 - その他

利用のための手続き (学外者)

ご利用になれる方

熊本大学附属図書館に所蔵されている資料を用いて学術的な調査・研究・学習を行うことを目的とする市民の方を対象とします。座席を利用するための利用や、原則として18歳未満の児童・生徒及び受験生等の利用はできません。ご了承ください。

一時的に利用される場合

閲覧を希望する方は、各図書館にお越しいただき、カウンターで「図書館利用申請書(当日用)」に記入して入館してください。

継続的な利用または館外貸出を希望される場合(中央館)

中央館の継続的な利用・館外貸出を希望される方は、下記の条件により図書館利用証を作成することができます。

(利用条件)

- 現在所または勤務先が熊本県内であること

(出典：附属図書館ホームページ)

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/guide/visitors/circulation>

(資料 C-2-1-1-5) ホームページ公開アドレス

資料 C-2-1-1-1 理念と目標・計画 <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/aboutus/vision>資料 C-2-1-1-2 第29回熊本大学附属図書館貴重資料展ポスター
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/sites/default/files/kichou_no_29.pdf資料 C-2-1-1-3 熊本大学附属図書館利用規則
<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/print/print110000430.htm>

(出典：附属図書館ホームページ、熊本大学ホームページ)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

地域貢献活動の計画や方針は定められており、熊本大学及び附属図書館ホームページに公開する以外に、ポスター等でも周知を図っている。

改修後はデジタルサイネージ等の新たな広報も開始したことから、期待される水準にあると判断できる。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

計画に基づき、貴重資料展及び公開講演会/永青文庫セミナーを実施している(資料 C-2-2-1-1)。改修工事のため、平成24年度のみ貴重資料展を実施できなかったが、永青文庫セミナーは実施することができた(資料 C-2-2-1-2)。

附属図書館では、中央館・分館とも一般市民の入館利用を認め、中央館では地域住民への要望に応えるものとして、平成 12 年度から県内在住の一般市民に利用登録を行った上で貸出サービスを実施している。

公立図書館等との連携に関しては、熊本県大学図書館協議会、熊本県図書館連絡協議会主催の職員研修へ講師派遣を行うと共に受講者として参加している（資料 C-2-2-1-3）。（中期計画番号 K50）

（資料 C-2-2-1-1）貴重資料展及び公開講演会/永青文庫セミナー記録

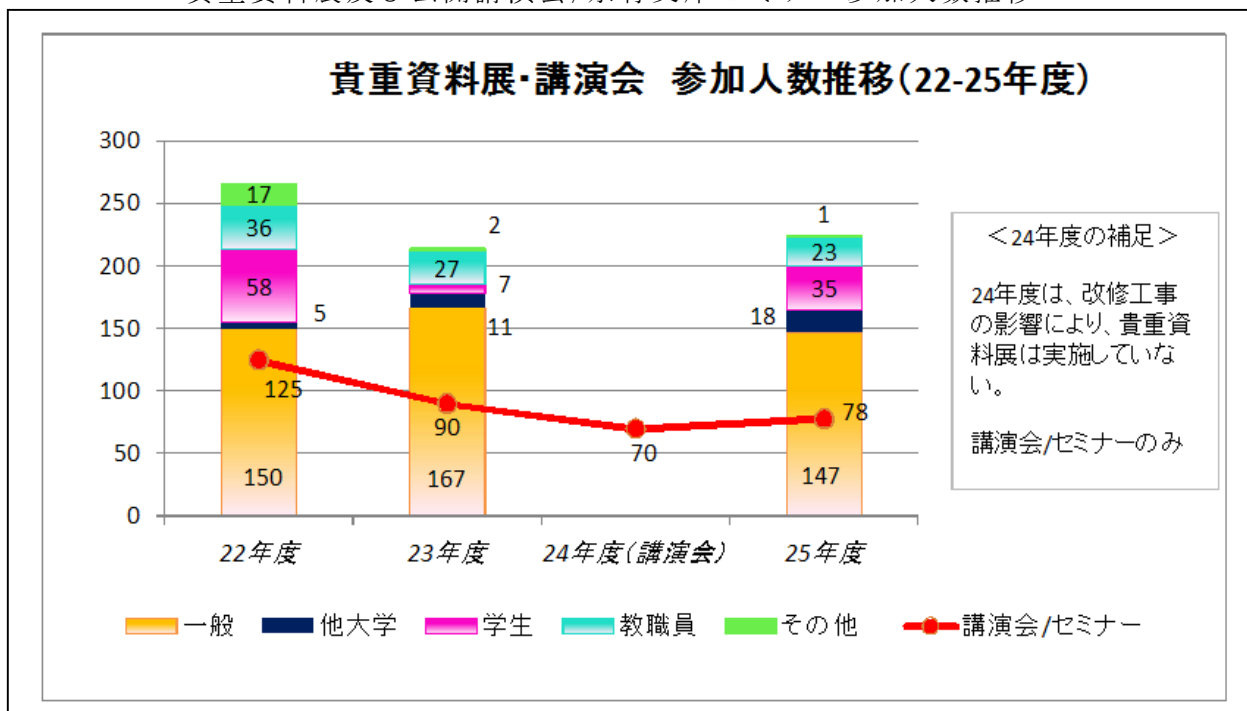
貴重資料展		
年度	回次	テーマ
22年度	27	若き日の細川幽斎 永青文庫蔵・織田信長文書を中心に
23年度	28	永青文庫にみる 肥後の街道とその景観
24年度		*24年度は改修工事のため、未実施
25年度	29	永青文庫にたどる 物語史と絵

公開講演会/永青文庫セミナー		
年度	永青文庫セミナー 回次	演題
22年度	5	永青文庫所蔵の信長文書の魅力
23年度	6	永青文庫資料にみる肥後の景観の魅力 街道とその建築
24年度	7	竹原家故実と細川藩
25年度	8	物語史と絵

（出典：図書館ユニット資料）

(資料C-2-2-1-2)

貴重資料展及び公開講演会/永青文庫セミナー参加人数推移



(出典:図書館ユニット資料)

(資料C-2-2-1-3) 県大図協及び県図連主催事業への附属図書館からの参加状況

	県図連主催研修会 中・上級	県図連主催研修会 初級	県大図協主催大学 図書館職員研修会	県大図協主催実務者 研修会・セミナー
平成 22 年度		受講者 1 名		受講者 2 名 講師派遣 2 名
平成 23 年度	受講者 1 名			受講者 3 名
平成 24 年度		受講者 1 名	受講者 1 名	
平成 25 年度	受講者 1 名		受講者 1 名 講師派遣 1 名	

県図連：「熊本県図書館連盟協議会」の略

県大図協：「熊本県大学図書館協議会」の略

(出典：図書館ユニット資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

貴重資料展は、本学研究者の協力のもと昭和 59 年度より継続実施している。(当時は特殊資料展)平成 24 年度は改修工事のため開催できなかったが、平成 25 年度はリニューアルオープン記念として、新しく設けた古文書閲覧室にて展示会を実施した。

一般市民利用については図書館ホームページでも案内しており、地域住民に対して貸出サービスを実施することにより、大学の知の提供を行っている。

公立図書館等との連携では、研修会へ受講者のみならず講師を派遣するなど積極的に協力し、貢献している。

上記により、期待される水準にあると判断できる。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

(観点到に係る状況)

貴重資料展・公開講演会/永青文庫セミナーは、毎年半数以上の参加者が一般市民であり地域貢献活動の成果である(資料C-2-3-1-1)。貴重資料展は熊本日日新聞にも後援を依頼しており、関連記事も掲載された(資料C-2-3-1-2)。

一般市民の利用登録者数・貸出者数・貸出冊数はいずれも増加傾向である(資料C-2-3-1-3)。

一般市民の要望に関しては、利用者が意見を自由に記載できる「ご意見ご要望リクエスト」用紙をカウンターに設置してニーズの把握に努めている。

なお、貴重資料展等の参加者の満足度を判断するためのアンケートを実施するなど具体的な意見聴取も必要である。(中期計画番号 K50)

(資料C-2-3-1-1) 貴重資料展及び公開講演会/永青文庫セミナー参加者

貴重資料展						
	一般	他大学	学生	教職員	その他	計
22年度	150	5	58	36	17	266
23年度	167	11	7	27	2	214
24年度(未)	0	0	0	0	0	0
25年度	147	18	35	23	1	224

公開講演会/永青文庫セミナー						
	一般	他大学	学生	教職員	その他	計
22年度	94	2	14	14	1	125
23年度	65	4	4	13	4	90
24年度	49	0	0	18	3	70
25年度	45	10	11	12	0	78

(出典：図書館ユニット資料)

(資料 C-2-3-1-2) 貴重資料展 熊本日日新聞 掲載記事一覧

貴重資料展 熊本日日新聞 掲載記事一覧

代表的物語文学、絵入り本で紹介 熊本大付属図書館の貴重資料展 展覧会 熊大

2013.11.03 朝刊 都2 (全399字)

文化短信＝第29回熊本大付属図書館貴重資料展「永青文庫資料にたどる物語史と絵」展 展覧会 熊大
熊本大学付属図書館1階古文書閲覧室

2013.10.27 朝刊 文化 (全288字)

細川家の故実相伝に竹原家が関与 熊本大学で第7回永青文庫セミナー 熊大 竹原家故実と細川藩

2012.11.12 朝刊 文化 (全573字)

細川家臣・竹原家の役割考察 11月3日・熊本大永青文庫セミナー

2012.10.22 朝刊 文化 (全289字)

浮かび上がる熊本藩内の町村「永青文庫資料にみる肥後の街道とその景観」展 29日-31日 熊本大学図書館 展覧会

2011.10.07 朝刊 文化 (全733字)

若き幽齋一戦と学芸と 熊本大付属図書館、30日から資料展 信長の書状など29点 展覧会

2010.10.26 朝刊 二社 (全604字)

(出典：熊本日日新聞)

(資料 C-2-3-1-3) 一般市民登録者数・貸出者数・貸出冊数

	登録者 (人)	貸出者 (人)	貸出数 (冊)
平成21年度	509	1,668	4,029
平成22年度	494	2,011	4,343
平成23年度	545	2,052	4,718
平成24年度	406	1,289	3,031
平成25年度	334	1,379	3,298

平成 24～25 年度は改修中

(出典：図書館ユニット資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

貴重資料展及び公開講演会/永青文庫セミナーの参加者は、過半数が一般市民であることから、地域貢献活動の成果とみられる。

一般市民の登録者数・貸出者数・貸出冊数とも増加していることから、地域住民の利用が活発に行われており、期待される水準にあると判断できる。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

地域貢献活動の状況を検証する組織である附属図書館運営委員会(資料 C-1-4-1-1 (17 頁))に事業の実施報告を行い、学内選出委員から改善のための意見を聴取している。

平成 25 年 11 月上旬に開催した貴重資料展は、新しく設けた古文書閲覧室にて実施し(資料 C-2-1-1-2 (21 頁))、高齢者も多い一般市民にバリアフリーの環境での見学を可能とした(資料 C-1-4-1-5 (19 頁))。

改修後は、ラーニングコモンズやリフレッシュルーム等の新しい場所を設置し、一般市民へ快適な環境を提供している。(中期計画番号 K50)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

附属図書館の改修により、利用者に新しく快適な施設・設備を提供できることから、地域住民へのサービスが向上しており、期待される水準を上回ると判断できる。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

学術リポジトリは、平成 21 年度と比較して登録件数及びダウンロード数が 2 倍に増加した(資料 C-1-3-1-1 (16 頁))。

図書館ホームページも平成 24 年 4 月にリニューアルした(資料 C-1-4-1-4 (18 頁))。

国指定重要文化財として所蔵している貴重資料には、全国の美術館等から多くの貸出要望があり、改修工事期間中であっても限られた事務スペースを工夫して対応した(資料 C-1-2-1-7 (14 頁))。

上記により、質の向上度は「高い質を維持している」と判断できる。

(2) 分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

昭和 59 年度より継続している貴重資料展は、平成 25 年度に第 29 回展覧会を開催した。生涯教育で高齢者も多くみられる参加者にはバリアフリーの環境を考慮し、1 階の古文書閲覧室を会場とした。また例年、貴重資料展及び公開講演会/永青文庫セミナーの参加者の過半数は一般市民であることから、地域貢献は適切に行われている(資料 C-2-3-1-1 (25 頁))。

上記により、質の向上度は「改善、向上している」と判断できる。

Ⅲ 国際化の領域に関する自己評価書

1. 国際化の目的と特徴

熊本大学はその「目的」で「世界に開かれた情報拠点として、各国の大学や研究機関と学術的・文化的交流を積極的に推進するとともに、本学学生を国際社会に送り出し、留学生教育とその支援体制を充実することによって、学術文化の国際的発展に貢献する。」と述べている。

本学の国際競争力向上の観点からも、附属図書館の強化を図る必要がある。教育研究上、必要不可欠な資料の確保、とりわけ、電子ジャーナルの整備は重要である。附属図書館では全国の国公立大学図書館と連携しながら、電子ジャーナルを安定して提供できる環境の整備を図っている。

さらに、外国人留学生受入れ推進の観点からも、留学生に対応するために図書館の英語化の推進に努め国際化に必要な環境整備を行うことを目標として掲げている。

グローバル化に向けた職員の意識向上が必要であり、平成 23 年度には職員の海外研修を実現し、アメリカの大学図書館の状況を視察した。また、留学生のための母国語の一般雑誌購読について検討中であり、留学生が利用しやすい環境整備を進めている。

特筆すべき点は、平成 25 年 10 月の中央館改修に伴って新設したラーニングコモンズの活用である。本学は留学生数を 1,000 人に増加させることを目標としており、ラーニングコモンズは留学生のための勉学の場となることが目的であると共に、来日している留学生と日本人学生が図書館で交流することにより日本人学生の国際化を促進するものとしての活用を志向するものである。学生が活発に意見交換しながら学修できるラーニングコモンズは、留学生と日本人学生が学修の場に於いて意見交換できる絶好の環境である。今後は、ソーシャルネットワークシステムを利用して外国の大学生と交流するイベントなども考えられる。

[想定する関係者とその期待]

本学での学修や研究を望んで来日している外国人留学生・研究者も、日本人学生・研究者と同様の期待を図書館に抱いている。それは学修、研究のための文献調査であり情報収集の場である。個人の勉強、研究の場であり、レポート作成、PC/プリンタ等の利用のためともなっている。

日本人学生や研究者にとって、図書館は海外そのものについての学修や研究の場である。外国語能力の向上のため、日本文化の再発見のための図書館への期待も大きい。また、外国人留学生や外国人研究者との交流を期待して図書館を利用することも考えられる。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

留学生からの推薦図書購入は国際化推進機構の予算により開始したが、当予算終了後も継続して購入するなど積極的に国際化推進を図っている。

【改善を要する点】

図書館の国際化を更に推し進めるために、外国人留学生に特化したコーナーやスペース等の施設設備に関して検討が必要と思われる。

また、図書館を利用した国際化をどのように進めるかなど、運用面の検討を始めなければならない。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点に係る状況)

附属図書館ホームページの「附属図書館の理念・目標」(<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/aboutus/vision>) (資料 D-1-1-1-1) に、国際化について「図書館の英語化を推進し、国際化に必要な環境整備を行います。」という目標を掲げ、下記の3点を具体的な計画として挙げている。

- (1) 留学生用図書(日本語・外国語)の充実
- (2) 英語版ホームページの構築
- (3) 英語の館内サインの整備とガイドブックの充実

(資料 D-1-1-1-1) 理念と目標・計画 (抜粋)

国際化	目 標	図書館の英語化を推進し、国際化に必要な環境整備を行います。
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 留学生用図書(日本語・外国語)の充実 ▶ 英語版ホームページの構築 ▶ 英語の館内サインの整備とガイドブックの充実

(出典：附属図書館ホームページ)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教育の国際化についての目標を掲げ、その目標を達成するための具体的な計画を立てている。その目標及び計画を附属図書館ホームページで公表していることから、期待される水準にあると判断できる。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

附属図書館では、平成21年度に国際化推進機構の予算で、留学生からの推薦図書を中心に留学生用図書を購入した。このとき新着洋書を配架する「国際化図書」、簡易な英語の読み物を中心とする「英語読本」コーナーを新設した。国際化推進機構の予算は平成23年度で終了したが、その後も図書館の予算で継続して「国際化図書」、「英語読本」の資料を購入している(資料 D-1-2-1-1)。

ホームページについては、平成24年4月に図書館ホームページの全面的なリニューアルを行い、英語版のページ(<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/eng/howtouse>)を公開した。

平成25年10月の中央館リニューアルオープン時は、館内サインに英語表示を追加した。ガイドブックについては、図書館利用案内の英語版を毎年発行している。

(資料 D-1-2-1-1) 国際化図書購入資料一覧 (抜粋)

図書 ID	書名 / 著者名
11104000008	Neuroendocrinology : an integrated approach / David A. Lovejoy
11104000016	Computer aided power system operation and analysis / R.N. Dhar
11104000024	CFA fundamentals : the Schweser study guide to getting started / by Bruce Kuhlman ; edited by David W. Wiley and David Ekstrom
11104000032	Optics and spectroscopy at surfaces and interfaces / Vladimir G. Bordo and Horst-Günter Rubahn
11104000040	Molecular chemistry of sol-gel derived nanomaterials / Robert Corriu, Nguyễn Trong Anh
11104000059	Electronic structure and the properties of solids : the physics of the chemical bond / Walter A. Harrison
11104000067	Thermodynamics of crystals / Duane C. Wallace
11104000075	The physics of structurally disordered matter : an introduction / N.E. Cusack

(出典：図書館ユニット資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

留学生用の資料を継続して購入していること、英語版ホームページを公開していること、英語表示のサインが準備され、英語版の利用案内も発行されていることから、国際的な教育・研究活動に必要な整備は期待される水準にあると判断できる。

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。
--

※該当なし

観点 改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

留学生用の資料に関しては、学生希望図書・学生選書員となった学生が直接図書を推薦できる制度を活用し、留学生の要望に応じている。平成 25 年 1 月に実施された図書館長と学生の懇談会において、留学生からの意見であったグループ学修室については、留学生に特化したコーナーやスペースとはなっていないものの、改修後に実現している。その他の意見として挙げた日本語の理解が困難な学生への対応、外国雑誌の充実、日本人と外国人の交流については検討中である。

図書館ホームページの英語版は随時更新を行い、図書館利用案内の英語版(冊子)も毎年内容を最新の情報に更新している。

平成 23 年度には、国際戦略ユニットが企画する海外 FD 研修へ同行し、カリフォルニア州立大学フラトン校へ図書館職員 2 名を派遣した。海外の大学図書館職員と直接意見を交換し、帰国後それを職員全員へ報告することにより、職員の国際化に対する意識改革へ繋がっている。

今後は外国人留学生と日本人学生との交流の場として図書館をどのように利用するか
の検討が必要である。そのための関係部署と附属図書館との連携も重要であり、
図書館における国際化に係る機能強化に向けた取り組みが喫緊の課題である。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

附属図書館では、留学生用図書が学生からの希望に応える形で購入している。また、
図書館長と学生の懇談会での留学生の意見については既に対応している。図書館ホーム
ページ及び図書館利用案内の英語版は毎年改訂及び更新を行い、留学生に必要な情報
を随時正確に伝達している。これらのことから、改善のための取り組みは期待される
水準にあると判断できる。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を
上げていること。

附属図書館では、国際化に向けて3つの計画を挙げており、計画に従って活動が
行われている。計画や具体的方針については立案されホームページで広報されてい
る。留学生用図書の充実については、平成21年度に資料の整備の基礎が培われ、
コーナーが新設され、その後も継続して充実している。英語版の図書館ホーム
ページは全面的にリニューアルされ公開された。図書館改修後は館内サインに
英語が標準で追加され、図書館利用案内の英語版は毎年更新されている。これら
のことから、質の向上度については「改善、向上している」と判断できる。

IV 教育研究支援の領域に関する自己評価書

1. 教育研究支援の目的と特徴

図書館を取り巻く環境の変化として、近年のインターネットの普及やICT（情報通信技術）の発達に伴い、電子図書館の構築など図書館の高度情報化のニーズが高まっている。さらに今日では、スマートフォンやタブレット端末を使用した情報の収集や資料の作成をはじめ、ソーシャルネットワークによる交流、オンラインブックの利用等、これまでにはなかった新たな環境も充実してきた。これらをはじめ、学生や社会人（一般市民）の多様な学修ニーズに対応するためには、大学図書館の新たな機能として、静謐な個別の学修空間だけではなく、グループでデジタル情報と紙情報をシームレスに使い、種々のサポートも受けられる新しい学修空間も備える必要性が認識されるようになってきた。一方、教員等研究者へのサポートとしては、従来の図書館機能を保持したうえで、研究環境と研究方法の変化に対応した新しいサービスを提供しなければならない。

本学の教育及び研究の目標を達成するため、附属図書館では教育支援、学修支援及び研究支援のそれぞれの到達点として「I-3. 組織の目的」で述べた目標と計画を掲げている。

これら到達点に達するため、平成25年度には次の具体的な計画を掲げた。

（第二期中期目標N0.26）電子コンテンツの整備、図書館システムとeラーニングシステムとの連携及び電子コンテンツ等の利用ガイダンスの実施状況を検証し、必要に応じて見直しを検討する。また、図書館システムとシラバスの連携については、「図書館システムとシラバス連携機能強化計画」に基づき、実施する。

（第二期中期目標N0.27）附属図書館においては、引き続き学修環境整備計画に基づき、グループ学修スペース（ラーニングコモンズ）を整備する。

（第二期中期目標N0.50）学術リポジトリの拡充計画、公立図書館等との連携計画及び附属図書館貴重資料展実施計画を実施し検証するとともに、永青文庫等については研究の進展に応じて成果を公開する。

（第二期中期目標N0.90）貴重資料等の電子的公開を検証するとともに、電子コンテンツの整備及び電子コンテンツ等の利用ガイダンスの実施状況を検証し、必要に応じて見直しを検討する。

また、「学修支援機能」及び「研究支援機能」に関する方針を次のように掲げて平成25年度の中央館改修を実現したことは特徴と言える。閲覧・学習席を中心とする「静」の空間とラーニングコモンズという「動」の空間の共存・すみ分けに十分配慮し、併せて「蓄（アーカイブ）」の質を維持・発展させながら、図書館のこれまでの実績や新たなニーズを踏まえつつ、新時代の図書館にふさわしい機能の実現と意義ある諸サービスを提供する。（「これからの図書館－中央館改修後の基本的な運用計画－」）

この方針に沿い「意義ある諸サービス」の一環として、図書専門職員によるレファレンス（平成25年度から実施）のほか改修後の中央館ではTAを雇用（平成26年度から実施）して本や論文の探し方や入手方法のアドバイス、パソコンの使い方、学修のアドバイス、留学生サポート等の支援を始めたことは特筆すべき点である。

[想定する関係者とその期待]

図書館が行う教育研究支援において想定する関係者は、第一に在学中の学生である。学生にとって図書館は、学修場所としての役割、PCの利用、その他の多様な利用という“場所”としての図書館の存在を期待している。一方、中央館の改修にあたってどのような“サービス”を図書館に期待するか学生にアンケート調査を実施したところ、学生からは「話し合いが出来る学修環境」「学修方法、資料や情報の探し方などの相談対応」「情報機器の使い方の相談」等の回答があった。また、相談サービスの提供者として関わりたいか、という質問を大学院生に問うたところ「各種相談サービスに関わりたい」と考える者が一定数存在することも判った。

第二の想定する関係者は、教員（研究者）である。文献の貸出、取り寄せ、複写、また

電子ジャーナルに関するサービスの提供は従来から図書館に期待されている研究支援である。電子ジャーナル経費の高騰をきっかけとして機関リポジトリの重要性を見直すなど、これからは研究形態の変化に対応した新しいサービスの提供も期待される。本学の教員が代表を務める共同研究プロジェクトに関して、図書館の持つアーカイブ機能の柔軟な利用の提供、また図書館を研究会の場とし、所蔵する文献などの利用をいっそう容易に（また柔軟に）することで共同研究推進を支援することなどが考えられる。

図書館を利用する一般市民からも研究支援に対する期待が持たれている。学外の研究者等へ当館が所蔵する貴重資料等を開示することは、図書館の重要な役割である。中央館の改修により、研究者等が貴重資料を広げて調べたり、数人規模のゼミを行ったり、海外その他の来賓や報道関係者に披露したりできる部屋として資料閲覧室を配置し、研究支援への取り組みを一層充実した。

最後に本学職員にとっても図書館は重要な位置を占めている。業務上必要な文献を検索し、自身の研鑽のため必要な資料の収集を図書館に期待している。新採用職員研修に図書館研修が取り入れられており、職員として必要な知識獲得のため図書館の利用を勧めている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

改修に伴って、利用者の意見を取り入れることとしアンケートや館長懇談会を実施した。大学側の計画だけでなく、ハード面、ソフト面共に、利用者から要望のあった事項を取り入れることができた点は優れた点と言える。

【改善を要する点】

改修により、ラーニングコモンズが設置され利活用されている。今後更に教育支援活動を充実させるため、その活用法について教育関係の会議等を含め全学的に協議する必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、教育研究支援活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 教育研究支援活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

（観点到に係る状況）

教育研究支援活動の目的や基本方針は、理念と目標・計画（資料 E-1-1-1-1）で示している。

電子コンテンツは、電子コンテンツ整備計画に基づき進めている（資料 E-1-1-1-2）。

目的を達成するための計画や活動の具体的方針は、平成 24 年 6 月に開催された第 2 回附属図書館運営委員会にて、改修後の図書館におけるソフト面の検討 WG より附属図書館長へ出された「答申書」（資料 E-1-1-1-3）と、それを受けて、平成 24 年度第 5 回附属図書館運営委員会で「これからの図書館－中央館改修後の基本的な運用計画－」（資料 E-1-1-1-4）が出されており、活動の基盤となっている。

また、「これからの図書館－中央館改修後の基本的な運用計画－」は、国立国会図書館が運用する図書館に関する情報ポータルに取り上げられた（資料 E-1-1-1-5）。

改修後の基本的な運用は、上記の計画に沿って進めており、計画や具体的方針は図書館ホームページで公開している（資料 E-1-1-1-6）。

なお、各年度の具体的な計画や活動内容については、各年度当初に開催される第 1 回附

属図書館運営委員会において審議しており、前年度の活動実績の報告も併せて行っている。
 (中期計画番号 K26)

(資料 E-1-1-1-1) 理念と目標・計画 (抜粋)

理念と目標・計画		
理念		
<p>熊本大学附属図書館は、熊本大学の理念に基づき、教育と研究活動を支える学術情報基盤としての不可欠な役割を収集・保管し、学内外の利用者に対して、効果的に提供することを目指します。</p>		
目標・計画		
研究支援	目標	学術情報基盤を整備し、本学の研究成果を収集・保存し、ホームページ等で公開します。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ▣ 研究用データベース等の電子コンテンツの整備 ▣ 国立情報学研究所とリンクしている学術リポジトリへの登録促進
教育支援	目標	I C T (情報通信技術) を活用した教育を推進するため、図書館の I C T 環境を整備・強化します。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ▣ 教育用データベース等の電子コンテンツの整備 画 ▣ シラバスや e ラーニングシステムとの連携 ▣ 教員と連携したガイダンスや情報リテラシー教育支援の拡充

(出典:附属図書館ホームページ)

(資料 E-1-1-1-2) 電子コンテンツ整備計画 (抜粋)

電子コンテンツ整備計画

1. 背景と目的

本学は、第二期中期目標・中期計画において「ユビキタスな情報社会における学生の自主的学習を支援するため、総合情報環境構想に基づき、図書館の高度情報化を推進する。」とし、教育実施体制等に関する目標を掲げている。附属図書館においては、電子ジャーナルをはじめとした電子コンテンツの整備、図書館システムとシラバス及びeラーニングシステムとの連携、更にガイダンスの充実を目標としている。

本学の電子コンテンツ整備は、平成13年度学内予算「教育研究基盤校費(重点配分経費)」により外国雑誌の電子ジャーナル及び大規模データベースの本格的な導入を開始した。近年はインターネットの普及による情報環境の変化や学術情報の電子化における急速な進展により、電子コンテンツ整備の必要性がより一層高まっている。

このような状況を踏まえ、本学に適した電子コンテンツ整備計画を策定するものである。

2. 計画の概要

総合情報環境構想に基づき、図書館の高度情報化を推進するために教育用データベース等の電子コンテンツの整備を行う。電子ジャーナル及びデータベースのトライアル時の利用状況により、本学に必要な電子コンテンツを以下の基本計画により選定する。

(出典：平成23年度第4回附属図書館運営委員会 資料2-1)

(資料 E-1-1-1-3) 答申書 (抜粋)

改修にあたっては、閲覧・学習席を中心とする「静」の空間とラーニング・コモンズという「動」の空間の共存・すみ分けに十分配慮し、併せて「蓄(アーカイブ)」の質を維持・発展させながら、附属図書館のこれまでの実績や新たなニーズを踏まえつつ、新時代の本学中央図書館にふさわしい意義ある諸サービスを提供していくことが望まれる。

なお、答申の具体的内容は、検討の経緯を簡単に報告した後に「学習支援」「研究支援」「蓄(アーカイブ)」「市民・地域へのサービス」の4つのカテゴリーごとに述べ、併せて「全体に関すること」において関連する事項について、望まれることを記す。

1. 検討の経緯

平成24年4月24日(火)の第1回附属図書館運営委員会において、本WG(文学部、理学部および大学教育機能開発総合研究センターより教員各1名および図書館職員3名、計6名)が発足した折に、まずは改修後の図書館におけるソフト面の検討事項として考えられることを各委員がメモにまとめることとした。

5月9日(水)の第1回検討WGでは作成したメモに基づき意見を交換し、論点を整理した。「学習支援」「研究支援」「蓄(アーカイブ)」「市民・地域へのサービス」の4つのカテ

(出典：平成24年度第2回附属図書館運営委員会 資料5)

(資料 E-1-1-1-4) これからの附属図書館 (抜粋)

平成 25 年 2 月 28 日

これからの附属図書館

— 中央館改修後の基本的な運用計画 —

熊本大学附属図書館

附属図書館は、「熊本大学の理念に基づき、教育と研究活動を支える学術情報基盤としての不可欠な資料を収集・保管し、学内外の利用者に対して、効果的に提供することを目指す」という理念のもと、教育支援、学習支援、研究支援、社会連携、国際化、情報発信のそれぞれに目標・計画を掲げ、その達成に向けて努力しているところである。

(出典：平成 24 年度第 5 回附属図書館運営委員会 資料 2)

(資料 E-1-1-1-5) カレントアウェアネス・ポータル



CA Current Awareness Portal
図書館に関する情報ポータル

カレントアウェアネス・ポータルは、図書館界、図書館情報学に関する最新の情報をお知らせする、国立国会図書館

ホーム

熊本大学附属図書館、「これからの附属図書館—中央館改修後の基本的な運用計画—」を策定

Posted 2013年3月4日

熊本大学附属図書館が、2013年2月28日付けで「これからの附属図書館—中央館改修後の基本的な運用計画—」を策定し、公開しました。2012年度末にかけて実施している同館中央館の改修を機に、同大学の「総合情報環境構想2010」に沿って、現在及び将来の図書館に何が求められているかを検討し、附属図書館の基本的な運用計画をまとめたものです。章立ては以下ようになっており、なかでもラーニングコモンズを含めた学習支援機能について分量が割られています。

- (1)「学習支援」機能
- (2)「研究支援」機能
- (3)「蓄(アーカイブ)」機能
- (4)「市民・地域へのサービス」機能
- (5)その他

これからの附属図書館—中央館改修後の基本的な運用計画—(PDF:7ページ)
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/sites/default/files/images/kaishu/relibrary_2013.pdf

図書館(中央館)改修について(熊本大学附属図書館)
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/relibrary>

2012/6/6熊本大学附属図書館リニューアルのお知らせ看板設置(Togetter)
<http://togetter.com/l/316081>

(出典：国立国会図書館ポータル <http://current.ndl.go.jp/node/23004>)

(資料E-1-1-1-6) 公開アドレス

理念と目標・計画 (資料E-1-1-1-1 (37頁)、資料C-2-1-1-5 (23頁))

これからの図書館－中央館改修後の基本的な運用計画－ (資料E-1-1-1-4)
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/sites/default/files/images/kaishu/relibrary_2013.pdf

(出典：附属図書館ホームページ)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教育研究支援活動の計画や方針は、附属図書館ホームページに公開されている。「これからの附属図書館－改修後の基本的な運用計画－策定」は国立国会図書館ポータルでも取り上げられ、全国の図書館職員が目にする機会を得ている。上記のことから、期待される水準にあると判断できる。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点到係る状況)

教育研究支援活動の目的を達成する上での実施組織は、組織図 (資料C-1-4-1-1 (17頁)) に示されており、計画に基づいた活動が適切に実施されている。

計画は、図書館ホームページで公開し周知しているが、利用者である学生と附属図書館長が直接対話することにより、教育支援の目的と計画への理解を確認できる (資料E-1-2-1-1)。具体的な活動の中で、「東光原文学賞」は平成20年度に、学生の読書離れや日本語文章作成能力の低下が言われているなか、熊大生の言語力向上と創造力豊かな学生の育成、さらには地域社会における文学・文化活動の中核となる人材の輩出を目的に創設されたものである。

東光原文学賞の実施は、本学学生の読書への関心の喚起、文章作成能力の涵養という意義のみならず、附属図書館の利用者増や熊本大学の広報の一翼を担っている。平成22年度からは入賞作品をとりまとめ、「熊本大学東光原文学賞作品集」として冊子の発行を開始した。応募者は、本学学生を限定としている (資料E-1-2-1-2)。学部生が90%以上を占めており、大学院生の応募は少ない状況であるが、文系の学生だけではなく、理系の学生からの応募も多く実績を上げている (資料E-1-2-1-3)。

平成11年度から実施している図書館ガイダンスは、学生等が図書館の利用方法をマスターし、効率よく文献収集を行えるようになることを目的に開催している。平成24年度から25年度にかけて、図書館内のガイダンスが実施できない期間も、授業に出向く出張ガイダンス等を開催した (資料E-1-2-1-4)。

また平成25年10月の改修後は、中央館一階にレファレンスデスクを設けた。場所はラーニングコモンズに面した壁際で、OPAC専用パソコンの横に設けており、文献等の調べ物をしながら気軽に質問できるよう配慮した (資料E-1-2-1-5)。ラーニングコモンズでは、ライティング指導室との共催で、「アカデミックライティング入門」等の講座を開き、適切な教育支援活動の場となっている (資料E-1-2-1-6)。

(中期計画番号 K26)

(資料 E-1-2-1-1) 「図書館長と学生の懇談会」報告 (抜粋)

<p>「図書館長と学生の懇談会」報告</p> <p>○日時：平成25年1月18日(金) 16:30~18:00</p> <p>○場所：放送大学3階 講義室1</p> <p>○目的：改修後の図書館をよりよいものとするため、主として次のテーマについて学生の意見を直接聴取することを目的とする。</p> <p> テーマ 「改修後の図書館に期待するもの」</p> <p>○参加者：図書館長</p> <p> 学生 11名</p> <p> 文学部2名 法学部1名 教育学部2名 理学部1名 医学部1名</p> <p> 自然科学研究科1名 社会文化科学研究科2名 留学生1名(教育学研究科)</p> <p> 陪席 図書館スタッフ 9名</p>

(出典：平成24年度第5回附属図書館運営委員会 資料1)

(資料E-1-2-1-2)「東光原文学賞」学部別等応募件数

熊本大学「東光原文学賞」学部別等別応募件数

第3回 <平成22年度>

[男:11名、女:14名]

学部	学年				計	大学院	学年		計
	1年	2年	3年	4年			1年	2年	
文学部	1	6		1	8	教育学研究科		0	8
教育学部	1				1	社会文化科学研究科		0	1
法学部		2	3		5	自然科学研究科	1	1	2
理学部		1			1	生命科学研究科		0	1
医学部			1	4	5	医学教育系		0	5
薬学部					0	保健学教育系		0	0
工学部			1	2	3	歯学教育系	1	1	2
						法曹養成研究所		0	0
計	2	9	5	7	23	計	1	1	2
						総計			25

第4回 <平成23年度>

[男:11名、女:10名]

学部	学年				計	大学院	学年		計
	1年	2年	3年	4年			1年	2年	
文学部	3	2	4		9	教育学研究科		0	9
教育学部					0	社会文化科学研究科		0	0
法学部			1	3	4	自然科学研究科	1	1	2
理学部		1			1	生命科学研究科		0	1
医学部	1		1	1	3	医学教育系		0	3
薬学部				1	1	保健学教育系		0	1
工学部	1				1	歯学教育系		0	1
						法曹養成研究所		0	0
計	5	3	7	4	19	計	1	1	2
						総計			21

第5回 <平成24年度>

[男:5名、女:9名]

学部	学年				計	大学院	学年		計
	1年	2年	3年	4年			1年	2年	
文学部		3		2	5	教育学研究科		0	5
教育学部			1		1	社会文化科学研究科		0	1
法学部	1	1		1	3	自然科学研究科		0	3
理学部		1			1	生命科学研究科		0	1
医学部				2	2	医学教育系		0	2
薬学部				1	1	保健学教育系		0	1
工学部					0	歯学教育系		0	0
						法曹養成研究所		0	0
計	1	5	1	6	13	計	0	0	0
						総計			13

第6回 <平成25年度>

[男:12名、女:7名]

学部	学年				計	大学院	学年		計
	1年	2年	3年	4年			1年	2年	
文学部	2		2		4	教育学研究科		0	4
教育学部			1	1	2	社会文化科学研究科		0	2
法学部		1			1	自然科学研究科		0	1
理学部		1	2		3	生命科学研究科		0	3
医学部			1	1	2	医学教育系		0	2
薬学部	1			1	2	保健学教育系		0	2
工学部	4		1		5	歯学教育系		0	5
						法曹養成研究所		0	0
計	7	2	7	3	19	計	0	0	0
						総計			19

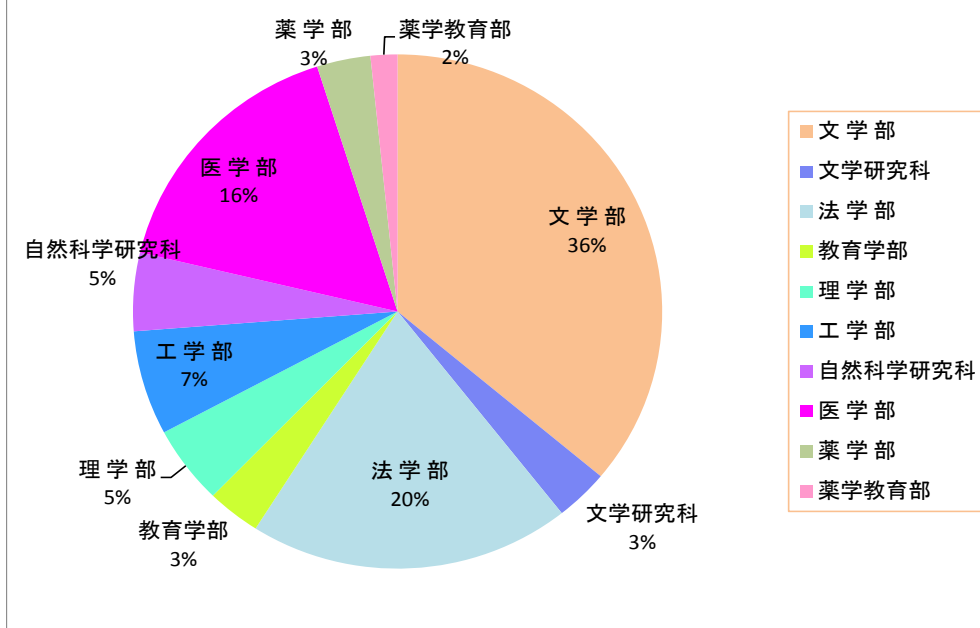
(出典: 図書館ユニット資料)

(資料E-1-2-1-3) 東光原文学賞関連資料

東光原文学賞 第3-6回 <平成22年度～25年度> 応募数

学 部	学 年				計	大学院	学 年		計
	1 年	2 年	3 年	4 年以上			1 年	2 年	
						文学研究科		2	2
文 学 部	4	11	4	3	22	教育学研究科	0	0	0
教育学部	1	0	1	0	2	社会文化科学研究科	0	0	0
法 学 部	1	3	4	4	12	自然科学研究科	2	1	3
理 学 部	0	3	0	0	3	生命科学研究所	0	0	0
医 学 部	1	0	2	7	10	医学教育部	0	0	0
薬 学 部	0	0	1	1	2	保健学教育部	0	0	0
工 学 部	1	0	1	2	4	薬学教育部	0	1	1
						法曹養成研究所	0	0	0
学部計	8	17	13	17	55	大学院計	2	4	6
						総 計			61

東光原文学賞 学部別応募状況(22-25年度)

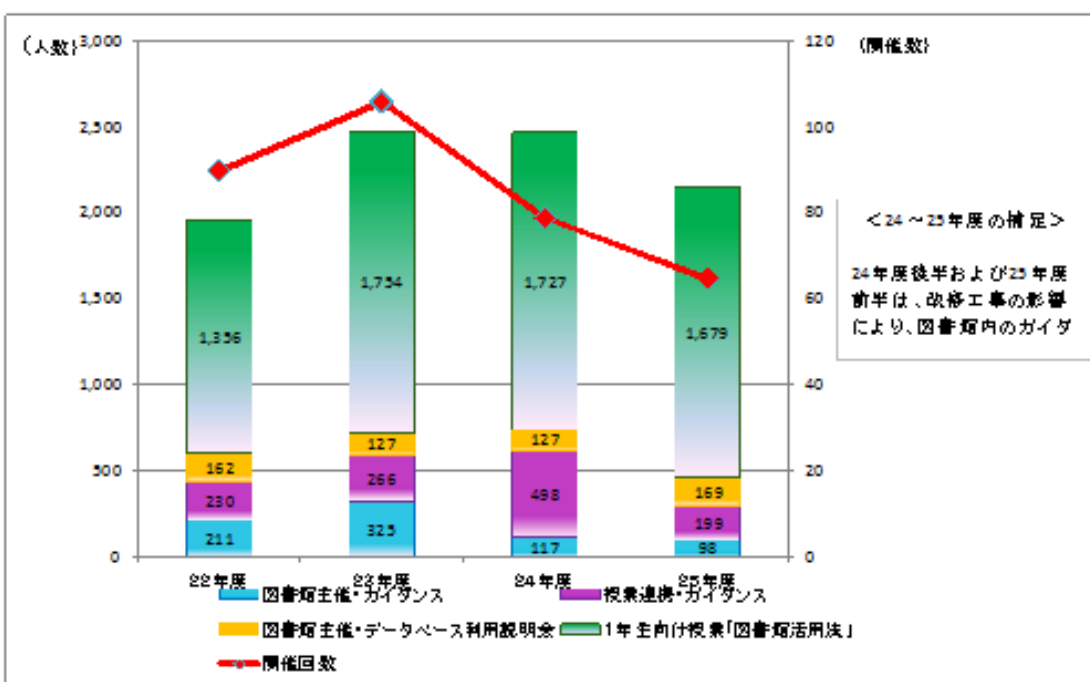


(出典：図書館ユニット資料)

(資料E-1-2-1-4) 図書館ガイダンス実施状況

図書館ガイダンス実施状況

ガイダンス種類	22年度		23年度		24年度		25年度	
	開催数	人数	開催数	人数	開催数	人数	開催数	人数
図書館主催・ガイダンス	56	211	64	325	27	117	25	98
授業連携・ガイダンス	8	230	15	266	25	498	11	199
図書館主催・データベース利用説明会	6	162	3	127	2	127	4	169
1年生向け授業「図書館活用法」	20	1,356	24	1,754	25	1,727	25	1,679
計	90	1,959	106	2,472	79	2,469	65	2,145



(出典：図書館ユニット資料)

(資料 E-1-2-1-5) 改修後のレファレンスデスク



(出典：附属図書館利用案内 2014)

(資料 E-1-2-1-6) ラーニングcommons講座広報

(出典：附属図書館ホームページ (<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/1068>))

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

附属図書館の理念と目標・計画に沿って活動している。特に平成 25 年度の改修後は、レファレンスカウンターで専門職員による活動を開始した。またラーニングcommonsにおいても、ライティング指導室と共催で各種講座やイベントを実施している。

上記より、期待される水準にあると判断できる。

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して、活動の成果があがっているか。

(観点到に係る状況)

附属図書館(中央館)は平成25年度にリニューアルオープンした。従来の図書館イメージを一掃し、ラーニングコモンズを導入した。リニューアルした図書館は、熊本大学広報誌「熊大通信」(資料E-1-3-1-1)にもとりあげられ、熊本日日新聞、読売新聞でも紹介された(資料E-1-3-1-2)。

東光原文学賞についても、毎年表彰式等を熊本日日新聞で報道されている(資料E-1-3-1-3)。

学生の教育支援として、学生選書員による選書も実施し、選書員以外の学生からも希望図書のリクエストを随時受け付け、蔵書構成に反映させている。

アンケートに関しては、「改修後の図書館サービスに関するアンケート」(資料E-1-3-1-4)だけに留まらず、データベース選定(資料E-1-3-1-5)の際も実施し、意見を反映させている。

レファレンスデスクでは、図書館職員が平日13:00~16:00に常駐し、様々な質問や利用相談に答えるレファレンスサービスを行っている(資料E-1-3-1-6)。改修前もレファレンスサービスは実施していたが、専用デスクを開設し職員常駐へとサービスを向上させたことで、利用者が気軽に相談を寄せられる環境となっている(資料E-1-3-1-7、E-1-3-1-8)。(中期計画番号K26)

(資料E-1-3-1-1) 特集Ⅱ 集まれ! 新たな知の拠点へ。(抜粋)



(出典：熊本大学広報誌「熊大通信」Vol.51 pp.11-14

(2014))

(資料 E-1-3-1-2) 図書館改修に関する新聞記事一覧

熊本日日新聞 2013.09.27 夕刊 ↵
 「熊本大学図書館を議論の場に 全面改修の中央館、10月開館 学習拠点、市民にも開放」 ↵
 ↵
 読売新聞 2013.10.02 西部朝刊 ↵
 「熊大付属図書館 中央館の改修終える 学長「語り合う場に」 =熊本」 ↵
 ↵

(出典:熊本日日新聞、読売新聞)

(資料 E-1-3-1-3) 東光原文学賞に関する新聞記事一覧

熊本日日新聞 2014.01.18 朝刊 都2 大賞に脇山さん(医学部保健学科3年) 熊本大学の第6回「東光原文学賞」 熊大 ↵
 熊本日日新聞 2013.01.19 朝刊 都2 熊本大「第5回東光原文学賞」大賞に黒江さん(法学部4年) 熊大 熊本大学 ↵
 熊本日日新聞 2012.01.14 朝刊 都2 大賞に田中さん(理学部2年) 熊本大学附属図書館の「第4回東光原文学賞」 ↵
 熊本日日新聞 2011.04.15 朝刊 文化 くまもと未来形・次代の担い手たち=小説・平井優希さん 批評し合って作品磨く ↵
 熊本日日新聞 2011.02.17 朝刊 朝二 社説=熊本と文学 良い作品が豊かにする風土 ↵
 熊本日日新聞 2011.01.18 朝刊 市圏 大賞に堀さん(大学院薬学教育部2年) 熊本大の「第3回東光原文学賞」 熊大 小説 ↵

(出典:熊本日日新聞)

資料2. 「改修後の図書館サービスに関するアンケート」結果

アンケート実施期間

平成24年5月11日(金) 12:00 ~ 25日(金) 23:59

アンケート回答者数

- ・学部学生 97名
工学部の学生による回答が 35%を占める。その他の学部は各 7~12%の回答。
学部1・2年の回答が合わせて 58%を占める。学部3・4年は合わせて 34%の回答。
- ・学部学生以外(以下、大学院生と表記) 25名
自然科学研究科 32%、社会文化科学研究科 24%、その他は各 1~2名の回答。
- ・外国人留学生の回答は、大学院生 1名からのみ。

アンケート結果から

「おおいに利用したい」「利用したい」と回答した学生の割合

1. 協同学習を行うことができるスペースについて

- ・話し合いをしながら学習できるオープンスペース

学部学生	78%	「どちらでもない」	10%
大学院生	52%	「どちらでもない」	32%
全体	73%	「どちらでもない」	14%
- ・グループ学習を行うことができる個室

学部学生	77%	「どちらでもない」	16%
------	-----	-----------	-----

(出典：平成24年度第2回附属図書館運営委員会 資料5・付属資料2)

(資料 E-1-3-1-5) データベース選定 (アンケート結果最終報告)

データベース選定 (アンケート結果最終報告)

① 学術文献検索 DB (Scopus / Web of Science) への意見募集

- 【広報】メール送信 1 回目メーリングリスト登録者全員宛 (12 月 1 日送信)
 2 回目メーリングリスト登録者全員宛 (12 月 20 日送信)
 3 回目大学院生対象 (12 月 20 日送信)
 4 回目メーリングリスト登録者全員宛 (1 月 26 日送信)

熊本大学ポータル 連絡掲示板 掲載
 図書館サイト News 掲載

アンケート募集期間：12 月 1 日～2 月 3 日

アンケート回答：54 名

アンケート結果	回答数
Scopus 希望	23
Web of Science 希望	25
選択できない (不明)	3
計	54

② 法学系 DB (Lexis.com / Westlaw International) への意見募集

- 【広報】メール送信 1 回目法学部・法曹養成研究科教員宛 (1 月 6 日送信)
 2 回目法学部・法曹養成研究科教員宛 (1 月 17 日送信)

アンケート募集期間：1 月 6 日～2 月 3 日

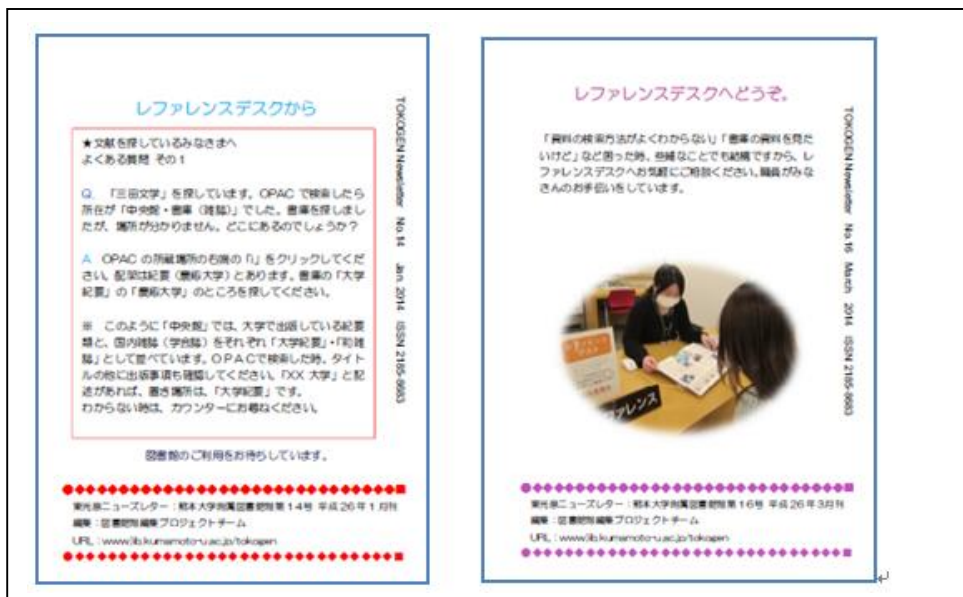
アンケート回答：13 名

アンケート結果	回答数
Lexis.com 希望	2 (4)
Westlaw International 希望	4 (5)
どちらでもかまわない (どちらかは必要)	7 (4)
どちらでもかまわない (個人的には必要と思わない)	0 (0)
計	13

(内訳) どちらでもかまわない (どちらかは必要) 7 名
 可能であれば Lexis.com 希望 2 名
 可能であれば Westlaw International 1 名
 外国法の検索ツールがあればどちらでもよい 4 名

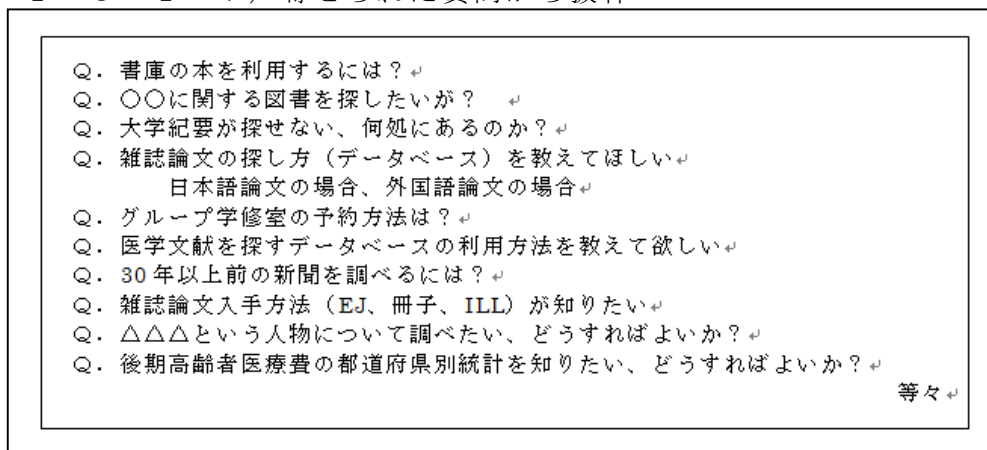
(出典：平成 23 年度第 5 回附属図書館運営委員会 資料 2)

(資料 E-1-3-1-6) レファレンスデスク関連資料



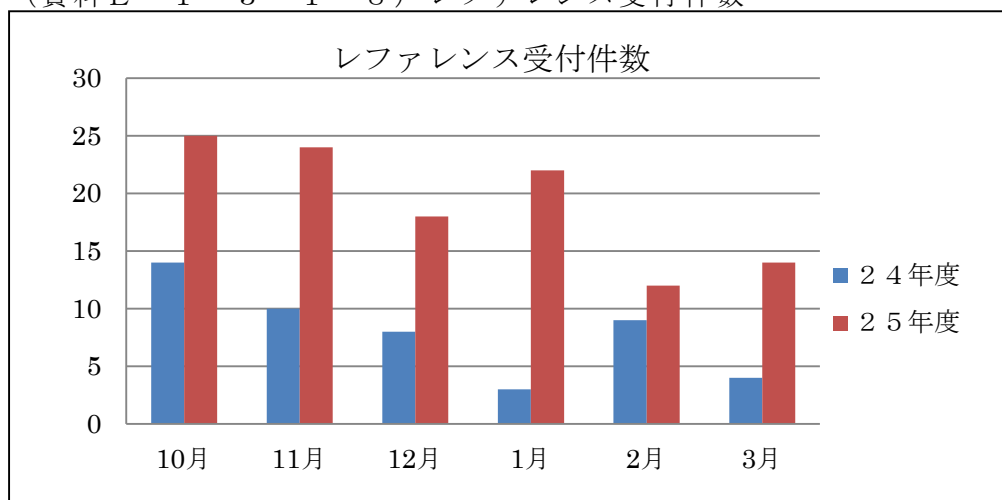
(出典：東光原ニューズレター：熊本大学附属図書館報 第14号・16号)

(資料 E-1-3-1-7) 寄せられた質問から抜粋



(出典：図書館ユニット資料)

(資料 E-1-3-1-8) レファレンス受付件数



※レファレンスデスクは平成25年10月から運用 (出典：図書館ユニット資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

アンケートにより学生・研究者のニーズを具体的に把握している。レファレンスデスクでは、利用者が気軽に相談を寄せられる環境を整備し、学生に対する学修支援強化の体制となっている。研究支援として、データベース選定でもアンケートによる意見を考慮し決定したことから、期待される水準にあると判断できる。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点到係る状況)

活動の状況を検証する組織は、附属図書館運営委員会(資料 C-1-4-1-1 (17 頁)) である。検証は、毎年委員会の議題となる図書館の活動報告(資料 E-1-4-1-1、E-1-4-1-2、E-1-4-1-3、E-1-4-1-4) で確認され、学内選出委員に改善のための意見を聴取している。

改善のための具体的な取り組みとしては、平成24年度から25年度にかけて中央館の改修が第一に挙げられる。この改修でラーニングコモンズを取り入れ、附属図書館は新しいサービスを開始した(資料 E-1-2-1-6 (44 頁))。中央館だけでなく、医学系分館も平成24年度にグループ学修室を設置し、学生のアクティブ・ラーニングに対応する設備を充実させた。

改修に当たっては学生のアンケートを参考にするとともに、「図書館長と学生の懇談会」(資料 E-1-2-1-1 (40 頁)) で学生の要望が高かった個席も増設した。個席の状況は、「熊大通信」Vol.51 の中央館リニューアル特集でエリアごとの機能を詳細に説明されている(資料 E-1-3-1-1 (45 頁))。

ラーニングコモンズを活用して学生のアクティブ・ラーニングを推進することが重要であり、教職員の意識向上のための取り組みを推進・強化すると共に、図書館における教育研究支援活動の充実について検討を進めなければならない。

その他、問題点等の改善に結びつけた具体的な例として、化学系データベース「SciFinder」が挙げられる。平成24年度までは同時アクセス数に制限のある契約であったが、平成25年度にアクセス数無制限の契約へ移行した。変更に関しては、1年間のアクセス状況を確認し、運営委員会で審議後に決定した(資料 E-1-4-1-5)。研究者は、アクセス制限によるストレスなく利用できる環境となっている。(中期計画番号 K26)

(資料 E-1-4-1-1) 平成 22 年度附属図書館活動状況

平成 22 年度附属図書館活動状況 (特記事項のみ)

- 1 附属図書館の理念と目標・計画の制定
平成 20 年度に運営委員会の下に「目標・計画専門委員会」を設置し検討した。その後、専門委員会が作成した(案)について運営委員会で審議した結果、別紙 1 のとおり決定した。
現在、この理念と目標・計画に沿って活動している。
- 2 利用環境の整備等
 - (1) 本館ロビー(ミニイベントコーナー)の活用
学生の図書離れ防止及び図書貸出増加を目的とし、ロビー展示プロジェクトによる企画展示を実施した。

4～5月	「図書館を使ってみよう！」	貸出冊数	51冊
5～6月	「本と旅する」	貸出冊数	142冊
6～7月	「数学再発見！」	貸出冊数	74冊
7～8月	「納涼!こわい本」	貸出冊数	70冊
8～10月	「学生選書祭 2010 こんな本が欲しかった!」	貸出冊数	102冊
10～11月	「学生選書祭 2010 第 2 弾本屋さんが選びました!」 (Library Laver's キャンペーン同時開催)	貸出冊数	226冊
11～12月	「そうだ!星を見に行こう!秋の星空観測」	貸出冊数	44冊
12～1月	「本屋大賞 一歩すすんだ楽しみかた」	貸出冊数	110冊
		計	819冊
- 3 学習用基本図書の充実
 - (1) 新着図書数 4,845冊
 - (2) 学生選書員による学習用図書の選書
学生選書員を募集し、購入図書リスト作成方式及び選書ツアーによる学習用図書の選書を実施した。
【リスト作成】・実施時期 : 5月12日～6月14日 【選書ツアー】・実施日 9月27日
・学生選書員 : 11名(21年度: 12名) ・学生選書員 12名
・選書点数 : 162冊(21年度: 309冊) ・選書点数 117冊
 - (3) 国際化図書
留学生からの希望図書及び自然科学系の基本洋書から選書を実施した。
・選書点数: 481冊
- 4 教育支援等
 - (1) 図書館ガイダンス等を別紙 2 のとおり実施した。
 - (2) 除籍図書の学生への無償譲与(平成 19 年度から実施)
171名、686冊(21年度: 178名、777冊)
- 5 貴重資料展等の実施
 - (1) 第 27 回貴重資料展及び公開講演会の実施
テーマ: 若き日の細川幽斎 -永青文庫蔵・織田信長文書を中心に-
 - (2) 第 5 回永青文庫セミナーの実施
テーマ: 永青文庫所蔵の信長文書の魅力
 - (3) 「ラフカディオ・ハーン来日 120 年・生誕 160 年」記念講演及・シンポジウムの実施
テーマ(講演): 混淆日本文化は是か非か -ハーンの周辺文化体験-
テーマ(シンポジウム): ハーン来日 120 年 -ハーンの魅力とその現代性-
- 6 東光原文学賞の実施
昨今、大学生の「読書離れ」が指摘され、大学生の日本語文章作成能力の低下が言われて久しい。また、全国的にも、大学附属図書館の利用者は漸減状態にあるため、本学学生の読書への関心を大いに喚起し、文章作成能力の涵養を図ることを目的に創設した。
第 2 回東光原文学賞
・応募対象: 熊本大学学生(大学院生、留学生を含む。)
・ジャンル: 小説
・募集期間: 21. 5. 31～21. 10. 29
応募数 25編 → 大賞 1 編、優秀賞 3 編を選出

(出典: 平成 23 年度第 1 回附属図書館運営委員会 資料 6)

(資料 E - 1 - 4 - 1 - 2) 平成 23 年度附属図書館活動状況

平成 23 年度附属図書館活動状況 (特記事項のみ)

- 1 附属図書館の理念と目標・計画の制定
平成 20 年度に運営委員会の下に「目標・計画専門委員会」を設置し検討した。その後、専門委員会が作成した(案)について運営委員会で審議した結果、別紙 1 のとおり決定した。
現在、この理念と目標・計画に沿って活動している。
- 2 利用環境の整備等
 - (1) 本館ロビー (ミニイベントコーナー) の活用
学生の図書離れ防止及び図書貸出増加を目的とし、ロビー展示プロジェクトによる企画展示を実施した。

3～ 8月	「自然災害と防災・原子力に関する本の展示」	貸出冊数	75冊
4～ 5月	「熊大生必読! 図書館だよ全員集合!!」	貸出冊数	136冊
5～ 6月	「図書館と化学」	貸出冊数	31冊
6～ 7月	「地デジか? ネットか? ~メディアについて考える~」	貸出冊数	20冊
7～ 8月	「キャリアをデザインする~自ら動き、自ら学ぶ自分軸を創るために~」	貸出冊数	39冊
8～ 9月	「学生選書祭 2011 第 1 弾」	貸出冊数	43冊
10月	「学生選書祭 2011 第 2 弾」	貸出冊数	122冊
10～11月	【Library Lovers キャンペーン 2011 図書館が、森になる!? 読書の木を育てよう】		
	運動企画 (2 テーマを同時に実施)		
	「先生の本棚」	貸出冊数	25冊
	「この秋、300人の文豪に会える! -百年文庫特集-」	貸出冊数	49冊
12～ 1月	「どうぶつ×くまだいい×ほん -動物の本特集-」	貸出冊数	37冊
3月	「男女共同参画」	貸出冊数	1冊
		合計	578冊
- 3 学習用基本図書の充実
 - (1) 新着図書数 5,542冊
 - (2) 学生選書員による学習用図書の選書
学生選書員を募集し、購入図書リスト作成方式及び選書ツアーによる学習用図書の選書を実施した。
【リスト作成】・実施時期 : 5月17日～6月13日 【選書ツアー】・実施日 9月6日
・学生選書員 : 22名 (22年度 : 11名) ・学生選書員 5名
・選書点数 : 229冊 (22年度 : 162冊) ・選書点数 186冊
 - (3) 国際化図書
自然科学系の基本洋書を選書し購入した。
・選書点数 : 105冊
 - (4) 男女共同参画関係図書
男女共同参画推進室からの推薦図書を購入した。
・購入点数 67冊
- 4 教育支援等
 - (1) 図書館ガイダンス等を別紙 2 のとおり実施した。
 - (2) 除籍図書の学生への無償譲与 (平成 19 年度から実施)
173名、781冊 (22年度 : 171名、686冊)
- 5 貴重資料展等の実施
 - (1) 第 28 回貴重資料展及び公開講演会の実施
テーマ : 永青文庫資料にみる肥後の街道とその景観
 - (2) 第 6 回永青文庫セミナーの実施
テーマ : 永青文庫資料にみる肥後の景観の魅力 -街道とその建築-
 - (3) ラフカディオ・ハーン来館 120 年記念熊本大学学術資料調査研究推進室講演会
テーマ・ハーン作品における超現実
・ハーン研究の最新の状況
- 6 東光原文学賞の実施
昨今、大学生の「読書離れ」が指摘され、大学生の日本語文章作成能力の低下が言われて久しい。また、全国的にも、大学附属図書館の利用者は漸減状態にあるため、本学学生の読書への関心を大いに喚起し、文章作成能力の涵養を図ることを目的に創設した。
第 4 回東光原文学賞
・応募対象 : 熊本大学学生 (大学院生、留学生を含む。)
・ジャンル : 小説
・募集期間 : 23. 5. 27～23. 10. 31
・応募数 : 25 編 → 大賞 1 編、優秀賞 4 編を選出

(出典 : 平成 24 年度第 2 回附属図書館運営委員会 資料 6)

(資料 E-1-4-1-3) 平成 24 年度附属図書館活動状況

平成 24 年度附属図書館活動状況 (特記事項のみ)

- 1 附属図書館の理念と目標・計画の制定

平成 20 年度に運営委員会の下に「目標・計画専門委員会」を設置し検討した。その後、専門委員会が作成した(案)について運営委員会で審議した結果、別紙 1 のとおり決定した。
現在、この理念と目標・計画に沿って活動している。
- 2 利用環境の整備等
 - (1) 中央館ロビー (改修中は南棟入口付近) の活用

学生の図書離れ防止及び図書貸出増加を目的とし、ロビー展示プロジェクトによる企画展示を実施した。

 - ① 6 月 「おくのほそ道」の諸本の展示
 - ② 8 月 ユングの「赤の書」の展示
 - ③ 12 月 「岩波ブックレット創刊 30 年フェア」連動企画
 - ④ 1 月 「第 5 回東光原文学賞発表」
 - ⑤ 2 月 「コレクション日本歌人選」歌の世界
 - ⑥ 3 月 「とんぼの本」の展示
 - ⑦ 3 月 「大学生のための・・・本」の展示
 - (2) Library Lover's キャンペーン 10 月 22 日～11 月 9 日
 - ① 「本で、旅する。－九州文学地図－」
 - ② 「九州地区 大学図書館貸出ランキング」
- 3 学習用基本図書の充実
 - (1) 新着図書数 6, 869 冊
 - (2) 学生選書員による学習用図書の選書

学生選書員を募集し、購入図書リスト作成方式及び選書ツアーによる学習用図書の選書を実施した。
【リスト作成】・実施時期 : 5 月 15 日～6 月 11 日
・学生選書員 : 28 名 (23 年度 : 27 名)
・選書点数 : 321 冊 (23 年度 : 415 冊)
- 4 教育支援等
 - (1) 図書館ガイダンス等を別紙 2 のとおり実施した。
- 5 貴重資料展等の実施
 - (1) 第 7 回永青文庫セミナーの実施

テーマ : 竹原家故実と細川藩
 - (2) ラフカディオ・ハーン顕彰熊本大学学術資料調査研究推進室公開講演会

テーマ・「師弟関係の物語－ハーン『英語教師の日記と手紙』とアミーチス『クオーレ』と豊子世『教師日記』をめぐって
・「ハーンの描く女性像」

※平成 24 年度貴重資料展は図書館改修に伴い中止
- 6 東光原文学賞の実施

昨今、大学生の「読書離れ」が指摘され、大学生の日本語文章作成能力の低下が言われて久しい。また、全国的にも、大学附属図書館の利用者は漸減状態にあるため、本学学生の読書への関心を大いに喚起し、文章作成能力の涵養を図ることを目的に創設した。

第 5 回東光原文学賞

 - ・応募対象 : 熊本大学学生 (大学院生、留学生を含む。)
 - ・ジャンル : 小説
 - ・募集期間 : 24. 6. 1～24. 10. 31
 - ・応募数 : 14 編 → 大賞 1 編、優秀賞 3 編を選出

(出典 : 平成 25 年度第 1 回附属図書館運営委員会 資料 7)

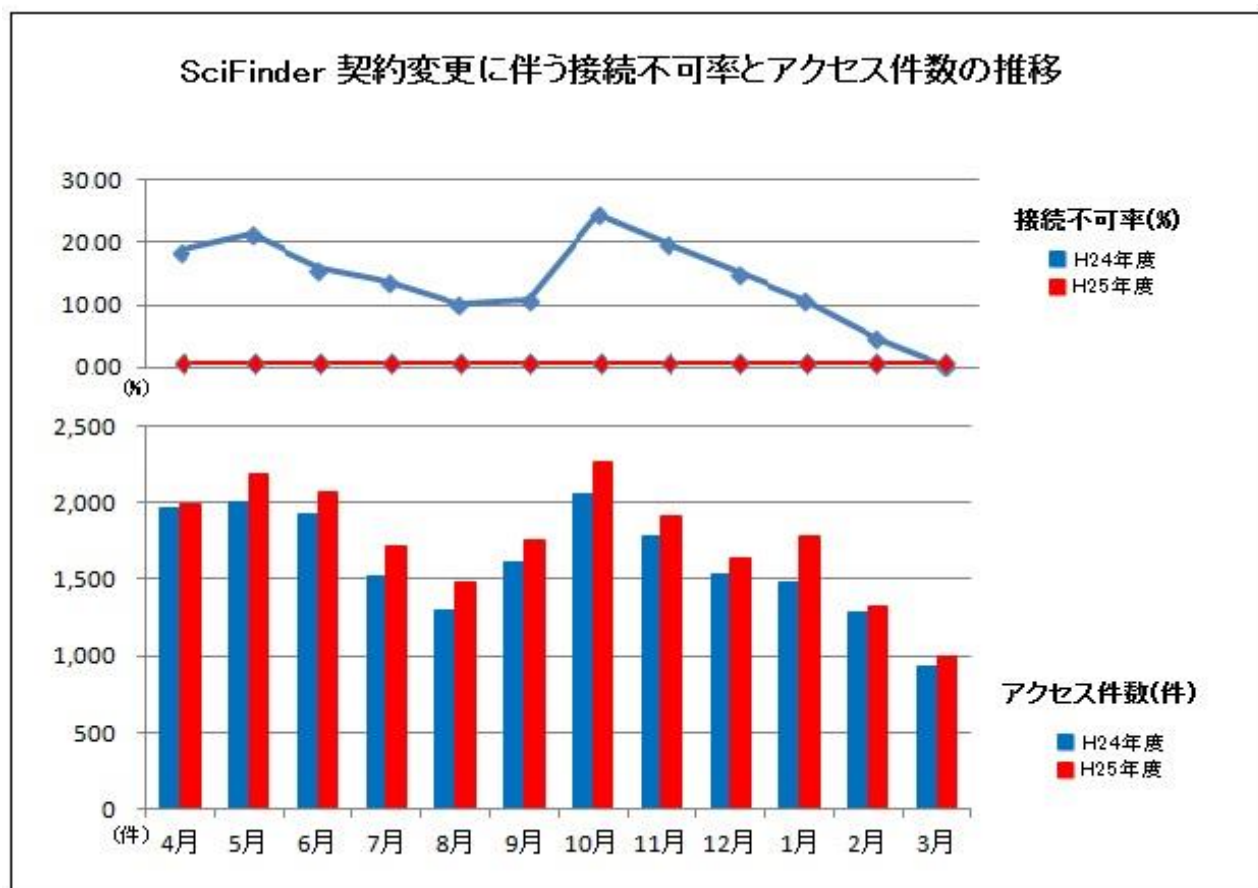
(資料 E - 1 - 4 - 1 - 4) 平成 25 年度附属図書館活動状況

平成 25 年度附属図書館活動状況 (特記事項のみ)

- 1 附属図書館中央館リニューアルオープン・記念式典
中央館は、全面改修工事を終え 10 月 1 日にリニューアルオープンした。
今回の改修は耐震補強工事を中心に行ったものであるが、一方でラーニングcommons という新時代の図書館にふさわしい機能を設けるとともに、学生からの要望も取り入れ、個席を多く配置したものとなった。
10 月 1 日には、記念式典を開催し、来賓の方々より祝辞をいただいた。
- 2 利用環境の整備等
 - (1) ラーニングcommons の新設
会話しながら学ぶエリアとして、アクティブエリア (予約不要) とグループ学修室 (要予約)、およびライティングサポートエリアを新設した。
 - (2) リフレッシュルームを新設
図書館内に飲食 (軽食限定) 可能な部屋を新設した。
 - (3) 中央館ロビーの活用
 - ① 4 月「大学生のための…本」 ダイナマイト新歓協賛イベント
 - ② 6 月「Very Short Introductions シリーズ (1 冊でわかるシリーズ)」
 - ③ 7 月「読む・知る・楽しむ鉄道の世界」(交通新聞社新書)
 - ④ 10 月「漱石の『筆』」(旧制高等学校の英語図書展示)
 - ⑤ 11 月「Library Lovers' 2013」
 - ⑥ 12 月「図書館キッチン」
 - ⑦ 1 月「旅する図書館」
 - (4) Library Lovers' 2013 合同企画 10 月 21 日～11 月 17 日
「収穫の秋 読書の芋。～九州まるっと収穫祭!～」
展示した本のうち、期間中、約半数は貸出されていた。
- 3 学習用基本図書の充実
 - (1) 新着図書数 4, 318 冊
 - (2) 学生選書員による学習用図書の選書
学生選書員を募集し、購入図書リスト作成方式による学習用図書の選書を 2 回実施した。
・実施時期 第 1 回: 6 月 17 日～7 月 5 日 第 2 回: 12 月 2 日～12 月 20 日
・学生選書員 第 1 回: 24 名 第 2 回: 8 名 合計 32 名
・選書点数 第 1 回: 300 冊 第 2 回: 104 冊 合計 404 冊
- 4 教育研究支援
 - (1) 図書館ガイダンス等を別紙 1 のとおり実施した。
 - (2) レファレンスデスクを開設し、文献検索等のサポートを強化した。
 - (3) 『ラーニングcommons 講座』をライティング指導室と共催にて実施した。
・アカデミック・ライティング入門 / アリストテレス哲学入門 / 体いっぱい米語
 - (4) 学認サービスを開始し、電子ジャーナル等が学外からも利用可能となった。
- 5 貴重資料展等
 - (1) 第 29 回熊本大学附属図書館貴重資料展・公開講演会 (第 8 回永青文庫セミナー)
テーマ: 永青文庫資料にたどる『物語史と絵』
 - (2) 学術資料調査研究推進室公開講演会「ハーンのまなざし」
テーマ: 日本文化の中のハーン
フランスにおけるハーンの受容
- 6 第 6 回 東光原文学賞
本学学生の読書への関心と文章作成の能力を高めることを目的とする。
・応募対象: 熊本大学学生 (大学院生、留学生を含む。)
・ジャンル: 小説
・募集期間: 6 月 1 日～10 月 31 日
・応募数: 19 編 → 大賞 1 編、優秀賞 4 編を選出

(出典: 平成 26 年度第 1 回附属図書館運営委員会 資料 5)

(資料E-1-4-1-5) SciFinder 契約変更に伴う接続不可率とアクセス件数の推移



(出典:図書館ユニット資料)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

教育研究支援活動改善のため、学生アンケートや館長懇談会を実施した。このアンケート結果より利用者の意見を取り入れ、改修後の図書館では新たに個室を増設した。附属図書館運営委員会の活動内容への意見により、データベースでは契約を本学に有利な条件に変更するなど、改善に向けた取り組みを行い成果が上がっている。

上記のことから、期待される水準を上回ると判断できる。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、教育研究支援活動が適切に行われ、成果を上げていること。

附属図書館の大規模な改修に伴い、利用者アンケートや、図書館長と学生の懇談会を実施し、具体的な要望を事前に確認した。その上で、新しいサービスの在り方を考え、「これからの附属図書館－中央館改修後の基本的な運用計画－」を策定することができた。この計画が第1期中期目標期間終了時点と比較して、評価時点の水準が大きく向上している点と考える。この計画は、国立国会図書館が運用する図書館情報ポータルにも掲載され、広く周知されることになった。

活動の実績として、新聞等のメディアでの紹介や、熊大通信の特集が挙げられる。

電子コンテンツに関しても類似データベースの比較検討を行い、経費節減に努力した。
また、経費の問題だけではなく、運用サービス面も検討し、化学系データベース「SciFinder」をアクセス無制限の契約へ変更している。
上記により、質の向上度は「改善、向上している」と判断できる。

V 男女共同参画の領域に関する自己評価書

1. 男女共同参画の目的と特徴

熊本大学は、「男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会」の実現を目指し、7つの基本方針に基づいて具体的事項を遂行している。附属図書館では、基本方針のひとつである「ジェンダーの視点による情報の提供」を実践することを目的とする。図書館では、大学が推進する男女共同参画社会について理解を深めることが出来るよう具体的な資料を提示し、視覚的・情緒的に訴えることで、学生、教職員の啓発を効率よく実施している。

〔想定する関係者とその期待〕

「男女共同参画」関係資料を検索・閲覧等するために図書館に来館する利用者は勿論であるが、その他の資料の入手を目的とした図書館利用者に対してもロビー等を利用して関係する文献・資料を展示等することにより、男女共同参画への関心を高めることに貢献している。これは、図書館の利用者である本学学生、教職員、一般市民に対して熊本大学の目指す男女共同参画社会を示すよい機会となる。

また、図書館ユニットでは職員が関係する研修に参加することを推奨している。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

平成 23 年度に初の試みとして男女共同参画推進室と協力して関連図書の収集を図り、ロビー展示を開催し、新たな本との出会いを作った。

【改善を要する点】

大学が推進する男女共同参画社会について理解を深めるため、関係する事業等に継続して取り組むことが必要である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 男女共同参画基本方針等の趣旨に照らし、男女共同参画の取組を実施しているか。

(観点到係る状況)

平成 23 年度に男女共同参画の取組として、熊本大学男女共同参画推進室と協力し関連図書を購入した(資料 F-1-1-1-1)。

図書の広報を目的に、平成 24 年 3 月 15 日～4 月 3 日にかけて中央館にて「男女共同参画」をテーマにロビー展示を実施した。この展示は、図書館ホームページのニュースに掲載した(資料 F-1-1-1-2)。

今後も、関係する事業等に継続して取り組むことが必要である。(中期計画番号 K73)

(資料 F-1-1-1-1) 男女共同参画購入資料リスト (抜粋)

書名	著者名	出版事項	ISBN	購入価格	書誌ID	図書ID
ジェンダー学と出会う	日黒依子編	東京 勁草書房 2007.6	9784326653263	2,194	BA82424706	11104233452
女性が福祉社会で生きるということ	杉本貴代著	東京 勁草書房 2008.5	9784326602100	2,493	BA86020752	1110423346C
モモタロー・ノー・リターン&サルカニ・バイオレンス: 音むかし、ジェンダーがありましたとさ...	奥山和弘著	東京 十月舎	9784434155581	997	EB05997599	11104233479
どこまで進んだ男女共同参画	黒川晴 [ほか]著; 日本学術協力財団編集	東京 日本学術協力財団	493908121X	1,795	BA80011690	11104233487
高齢者とジェンダー: ひとりと家族のあいだ	春日キスヨ著	広島 ひろしま女性学研究所 2009.2	9784907684198	1,197	BA89044429	11104233495
キャンパスセクシュアル・ハラスメント対応ガイド: あなたにできること、あなたがすべきこと	沼崎一郎著	京都 雄辯野書院 2005.5	4782304161	2,094	BA72099550	11104233509
恋するまえに: デートDVしない・されない10代のためのガイドブック	パリー・レイ著; 山口のり子, 小野りか訳	東京 梨の木舎 2008.6	9784816608046	1,496	BA91057106	11104233517
ジェンダー平等と多文化共生: 複合差別を超えて: 東北大学グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」	辻村みよ子, 大沢真理編	仙台 東北大学出版会 2010.3	9784861631467	2,992	EB01680218	11104233525
男女共同参画時代の女性農業者と家族	天野寛子, 柏谷美砂子著	東京 ドメス出版 2008.3	9784810707021	2,394	BA85729753	11104233533
日本農業の女性学: 男女共同参画社会とエコロジカル・ライフをめざして	富士谷あつ子著	東京 ドメス出版 2001.3	4810706390	2,992	BA51672087	11104233541
ストップデートDV: 防止のための恋愛基礎レッスン	伊田広行著	大阪 解放出版社 2011.11	9784759267471	1,396	EB07538049	11104233559
揺らぐ性・変わる医療: ケアとセクシュアリティを読み直す	根村直美編著	東京 明石書店 2007.10	9784750326504	2,793	BA8362780X	11104233568
ジェンダーと交差する健康/身体	根村直美編著	東京 明石書店 2006.2	4750320641	2,793	BA71280024	11104233576
京都大学男女共同参画への挑戦	京都大学女性研究者支援センター編	東京 明石書店 2008.9	9784750328539	2,992	BA87378241	11104233584
高校の「女性」校長が少ないのはなぜか: 都道府県別分析と女性校長インタビューから探る	河野銀子, 村松泰子編著; 村上郷子 [ほか]著	東京 学文社 2011.11	9784762022210	2,294	EB07485565	11104233592
ジェンダーで学ぶ生活経済論: 福祉社会における生活経営主体	伊藤セツ, 伊藤純編著	京都 ミネルヴァ書房 2010.4	9784623067191	2,793	EB01637296	11104233606

(出典: 図書館ユニット資料)

(資料 F-1-1-1-2) ロビー展示広報 (抜粋)

図書館について

- ▶ 附属図書館の概要
- ▶ 図書館改修について
- ▶ 出版物
- ▶ 県立原文学賞
- ▶ イベント
- ▶ 貴重史料
- ▶ 図書館ロビー展示
- ▶ 申込書
- ▶ 図書券

Re-library 中央館の改修について

Repository
Kumamoto University

図書館ガイド

旬の情報

男女共同参画

2012/03/22

回: 特別講
 展示開始: 2012/03/15
 展示終了: 2012/04/03

展示テーマ: 「男女共同参画」
 期間: 平成24年3月15日(木)～4月3日(火)
 場所: 附属図書館中央館1階ロビー

男女共同参画推進委員と協力し、男女共同参画に関する図書を集めました。
[熊本大学男女共同参画推進委員ホームページ](#)



展示図書一覧

冊数	書名	著者名	出版事項	分冊冊数	巻数	巻数	ISBN	図書ID
1	少子化政策の新しい挑戦: 多面的な取り組みを遂行して	岡田善美, 小関隆子編著	東京 中央館出版 2010.4	334.2	Sh, 96		9784803584070	1110423386X
2	次世代育成支援対策でコミニアル: 企業と育児を分かち、育児出版社からの挑戦	次田尚輝編著	東京 次田尚輝出版 2004.12	336.48	3,54		4870140381	11104233843
3	家族/ファミリーの再構築: 人権・私的領域・政策	飯沼恵江編著	東京 中央館出版 2008.2	367.1	3,36	(1)	9784881821752	11104234009
4	国際移動と「構築するジェンダー」: 再生産領域のグローバル化	伊藤セツ, 尾立隆子編著	東京 中央館出版 2008.4	367.1	3,36	(2)	9784881821769	11104234017
	少子化とエコノミー:	飯沼英子,	...					

(出典: 附属図書館ホームページ)

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/events/lobby/383>

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

平成 23 年度に、学内の連携により男女共同参画に係る図書 67 冊を購入した。購入した図書は、ロビー展示開催により広報したことから男女共同参画の活動状況は良好であると判断できる。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

平成 23 年度に男女共同参画推進室と協力し、関連図書の収集を図った。また、男女共同参画への興味を広げるためロビー展示を開催し、新たな本との出会いを作った。

初の試みであったことから、質の向上度は「改善、向上している」と判断できる。

VI 管理運営の領域に関する自己評価書

1. 管理運営の目的と特徴

大学全体の将来構想の中で図書館の戦略的な位置付けを明確化し、学内外にアピールしていくことが重要であり、「図書館運営委員会」、「医学系分館運営委員会」及び「薬学部分館運営委員会」でその実現を図っている。また、図書館の機能を維持・向上させるため、戦略的で安定的な経費の確保策を策定し、その実現を図ることが必要であり、図書館運営委員会（分館運営委員会を含む）において財政基盤に関する審議も行っている。

事務体制は、教育研究推進部長のもと、図書館ユニット長、図書館ユニットチームリーダー、スタッフ、臨時職員で構成されている。また、外部委託等に委ねることが可能な業務との区分けを考慮した図書館の業務体制の在り方を模索し、平成 23 年度から業務の一部業者委託を開始した。

施設面に於いては、平成 21 年度の医学系分館新設や平成 25 年度の中央館の改修に当たり、教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備・サービスを整備した。

[想定する関係者とその期待]

図書館の利用者は、安心して安全な環境での学修や研究を期待している。学生は、図書館が簡単にインターネットに接続できる環境であること、同時にこれらが適切に維持・管理され、セキュリティ管理されていることを期待している。

またレファレンスをはじめとした“サービス”はもとより、近年は図書館職員等による学修支援も大きく期待されている。図書館が十分な任務を果たすことが出来るよう職員の資質向上のための各種の専門研修に積極的に派遣しているほか、一般事務系の研修にも積極的に参加している。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

平成 21 年度の医学系分館新設及び平成 25 年度の中央館改修で、図書館利用者が期待する安心して安全な学修や研究の環境を整備した。中でも動の空間であるラーニングコモンズは、学生の主体的・能動的学修を支える拠点になったといえる。また、レファレンスサービスは元より、図書館が保有する各種資料の公開や学生の学修意欲向上のためのロビー展示など、職員が中心となって提供するサービスに於いても積極的な職員研修等により利用者の期待に応えている。

【改善を要する点】

管理運営上の業務等改善のために、現状では把握出来ていない点で外部者の意見等を取り入れることについて検討する必要がある。

平成25年度の耐震改修を主目的とした中央館改修では床面積の増設には至っておらず、施設面に於いては十分な規模を備えているとはいえない。

また、附属図書館は国指定の重要文化財も所蔵しており、それにふさわしい管理が求められる。これらを収納し、調査研究・展示までを行える高度な機能を備えた施設及び貴重資料の扱いも含めた、適切な管理運営業務遂行上での人的資源の充実が必要である。

3. 観点ごとの分析及び判定

（観点到る状況）

分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

観点 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

（観点到る状況）

附属図書館は、中央館、医学系分館及び薬学部分館で構成され、管理運営組織としては、附属図書館全体の管理運営に関する事項等を審議する機関として、各学部等の代表者で組

組織された「附属図書館運営委員会」(13名)を設置している。また、同委員会の下に、各分館の運営に関する重要事項を審議する機関として、それぞれのキャンパスに所属する教員等により組織された「医学系分館運営委員会」(13名)及び「薬学部分館運営委員会」(5名)を設置している。

事務組織については、館長、教育研究推進部長の下に1ユニット長、2チームリーダー(現在、1人が2チームリーダーを兼務している)、6担当体制をとり、専任定員14名、専任臨時職員11名で組織している。(資料C-1-4-1-1(17頁)、資料Z-1-1-1-1及びZ-1-1-1-2)。

附属図書館では、窓口業務等一部の業務について外部委託を採用しているが、日報等により本学職員が窓口業務等の状況を常に把握しつつ、定期的にミーティングを行っている。

附属図書館の定型業務については、専任臨時職員、外部委託スタッフが対応しているが、新たな業務を展開するための企画・立案・運営の取り組みには専任定員が中心となり対応しなければならない。リニューアル後の附属図書館に新しいサービスが期待されている中、ラーニングコモンズ推進の企画や取り組みを実施していくにあたっては、その主戦力となる専任定員の数が重要なファクターとなる。本学の図書館の専任定員数は14名と他大学に比べて少ない。同規模大学の専任定員数を「日本の図書館 統計と名簿 2013」で比較した場合、富山大学21名、信州大学30名、岡山大学22名、愛媛大学19名、長崎大学19名、鹿児島大学21名となっており、今後、図書館の機動的な運営を推進していくうえで、人的資源の不足は否めない。

附属図書館の管理運営及び業務の運用にあたっては、関係諸規則を整備している(資料Z-1-1-1-3)。

危機管理等については、来館者及び職員の災害や事故等予期できない外的環境の変化に対応するためマニュアルや緊急連絡網等を作成し対応している。(資料Z-1-1-1-4)

また、附属図書館では、情報関連の業務を専門的に取り扱う部署として電子情報担当を置いており、情報セキュリティや個人情報保護及び法令遵守等への対応も積極的に行っている(資料C-1-4-1-1(17頁))。(中期計画番号K92)

(資料Z-1-1-1-1) 熊本大学附属図書館運営委員会規則の組織及び審議事項

<p>(組織)</p> <p>第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。</p> <p>(1) 図書館長</p> <p>(2) 医学系分館長及び薬学部分館長</p> <p>(3) 各学部(医学部及び薬学部を除く。)、大学院社会文化科学研究科、大学院自然科学研究科及び大学院法曹養成研究科から選出された教授又は准教授 各1人</p> <p>(4) 国際化推進センターから選出された教授又は准教授 1人</p> <p>(5) 教養教育機構長が推薦した者 1人</p> <p>2 前項第3号から第5号までの委員は、学長が委嘱する。</p> <p>3 第1項第3号から第5号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。</p> <p>4 第1項第3号から第5号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする</p> <p>(審議事項)</p> <p>第3条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1) 図書館規則その他重要な規則の制定改廃に関すること。</p> <p>(2) 予算概算の方針に関すること。</p> <p>(3) その他管理運営に関すること。</p>
--

(出典:熊本大学附属図書館運営委員会規則から抜粋)

(資料 Z-1-1-1-2) 所掌事務

(図書館ユニット)

第 24 条 図書館ユニットにおいては、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書館資料の契約、受入、分類、目録、登録及び管理に関すること。
- (2) 図書の資産登録に関すること。
- (3) 学術リポジトリのコンテンツの収集及び登録に関すること。
- (4) 図書館の広報に関すること。
- (5) カウンター業務（貸出、返却、利用案内等に係るものをいう。）に関すること。
- (6) レファレンスに関すること。
- (7) 貴重資料の閲覧、貸出、電子化等に関すること。
- (8) 情報リテラシー教育支援（利用ガイダンス企画等をいう。）に関すること。
- (9) 文献複写及び図書館資料の相互貸借に関すること。
- (10) その他図書館ユニットのミッション達成に必要な業務に関すること。

(出典:国立大学法人熊本大学事務組織規則から抜粋)

(資料 Z-1-1-1-3) 附属図書館関係諸規則

熊本大学附属図書館規則
 熊本大学附属図書館長選考規則
 熊本大学附属図書館運営委員会規則
 熊本大学附属図書館医学系分館運営委員会細則
 熊本大学附属図書館薬学部分館運営委員会細則
 熊本大学附属図書館利用規則
 熊本大学附属図書館医学系分館及び薬学部分館開館時間外利用細則
 熊本大学附属図書館貴重書及び特殊文庫資料利用細則
 熊本大学細川家北岡文庫古文書利用規則
 熊本大学附属図書館貴重資料公開指針
 熊本大学学術資料調査研究推進室要項

(出典:熊本大学規則集から抜粋)

(資料 Z-1-1-1-4) 危機管理マニュアル目次

目次	
1.	緊急連絡網・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
1-2.	緊急通報装置（北地区門衛所）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
1-3.	非常用備品・・ 5
2.	非常ベル・防犯ベル・警報機などが鳴った時・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
3-1.	火災発生・・ 8
3-2.	ハロンガス消火設備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
4-1.	病人・けが人の発生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
4-2.	AED（自動体外式除細動器）の利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
5.	台風・・ 17
6.	大雨・・ 18
7-1.	地震発生・・ 19
7-2.	地震時の防災体制発動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
7-3.	緊急地震速報・・ 22
8.	全館的停電・・ 23
9.	設備、機器の故障・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
10.	異臭の訴え・・ 28
11.	盗難事件・・ 30
12.	館内での不審者への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
13.	館外での不審者への対応（通報があった）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
14.	暴力的・非暴力的不法行為・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
15.	その他の迷惑行為・・ 40
16.	セキュリティ・インシデント
	（セキュリティに関係した出来事 ex. 不正アクセス等）が発生した場合・・・ 43
16-2.	個人情報の漏えいが発生した場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
17.	その他の事態・・ 46

(出典:危機管理マニュアルから抜粋)

(水準)

期待される水準を下回る。

(判断理由)

附属図書館は全学的な意見の集約が必要であり、運営委員会の構成員を館長、分館長及び各学部等の代表者で組織していることは適切である。また、本荘・九品寺地区に医学系分館、大江地区に薬学部分館を置き、それぞれのキャンパスに所属する教員等より組織された運営委員会を設置し、機動的な管理運営体制を敷いている。

危機管理等は、連絡網等情報伝達体制やマニュアル等を整備しており、適切な管理を行っている。

事務組織は、1ユニット2チームの下に6担当を置いており、ピラミッド型の統一性のとれた体制となっているが、学生のアクティブ・ラーニング推進のための新たな業務も発生しており、適切な管理運営業務遂行の上で人的資源の不足は否めない。

観点 構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

平成 24 年 5 月に図書館ホームページを通じて「改修後の図書館サービスに関するアンケート」を実施した（資料 Z-1-2-1-1）。

その結果は「これからの附属図書館－中央館改修後の基本計画－」に反映され、個席の増設やラーニングコモンズの設置につながった（資料 Z-1-2-1-2）。

中央館では改修後の図書館をよりよいものとするため、学生の意見を直接聴取する機会として「改修後の図書館に期待するもの」をテーマに図書館長と学生の懇談会を開催した。（資料 Z-1-2-1-3）。

教職員からの意見は、平成 24 年 6 月に開催された第 2 回附属図書館運営委員会にて、改修後の図書館におけるソフト面の検討 WG より附属図書館長へ出された「答申書」である（資料 E-1-1-1-3（37 頁））。一般市民の要望に関しては、利用者が意見を自由に記載できる「ご意見ご要望リクエスト」用紙をカウンターに設置してニーズの把握に努めている。

これらの意見やニーズは図書館側で把握し、改修後の個席の増加、ラーニングコモンズ設置を始め、レファレンスデスクの開設に反映されている。また「答申書」を受けて、平成 24 年度第 5 回附属図書館運営委員会で「これからの図書館－中央館改修後の基本的な運用計画－」が出されており、活動の基盤として管理運営へ反映させている（資料 E-1-1-1-4（38 頁））。レファレンスデスクは、図書館職員が平日 13:00～16:00 に常駐し、様々な質問や利用相談に答えるレファレンスサービスを行っており（資料 E-1-3-1-6（49 頁））、今後さらに充実させる計画がある。改修前もレファレンスサービスは実施していたが、専用デスクを開設し職員常駐へとサービスを向上させたことで、利用者が気軽に相談を寄せられる環境としている（E-1-3-1-8（50 頁））。

（資料 Z-1-2-1-1）改修後の図書館サービスに関するアンケート結果報告

改修後の図書館サービスに関するアンケート 結果報告

アンケート実施期間

平成 24 年 5 月 11 日（金）12:00～25 日（金）23:59

アンケート回答者数

・学部学生 97 名

工学部の学生による回答が 35%を占める。その他の学部は各 7～12%の回答。

学部 1・2 年の回答が合わせて 58%を占める。学部 3・4 年は合わせて 34%の回答。

・学部学生以外（以下、大学院生と表記）25 名

自然科学研究科 32%、社会文化科学研究科 24%、その他は各 1～2 名の回答。

・外国人留学生の回答は、大学院生 1 名からのみ。

アンケート結果から

「おおいに利用したい」「利用したい」と回答した学生の割合

1. 協同学習を行うことができるスペースについて

・話し合いをしながら学習できるオープンスペース

学部学生 78% 「どちらでもない」10%

大学院生 52% 「どちらでもない」32%

全体 73% 「どちらでもない」14%

・グループ学習を行うことができる個室

学部学生 77% 「どちらでもない」16%

大学院生 40% 「どちらでもない」56%

全体 69% 「どちらでもない」24%

・プレゼンテーションやプレゼンテーションの練習を行うことができるスペース

学部学生 66% 「どちらでもない」 26%

大学院生 52% 「どちらでもない」 40%

全体 63% 「どちらでもない」 29%

◇ 話し合いをしながらの学習は、学部学生（66～78%）の期待が大きく、大学院生は学部学生と比べると少ない（40～52%）ものの約半数は期待している。大学院生は所属研究室でグループ学習や演習を行うことができるからではないか。→学部学生・大学院生ともに話し合いが出来る学習環境を希望していることがわかる。

2. 相談サービスについて

・学習方法に関する相談サービス

学部学生 36% 「どちらでもない」 46% 「利用したくない」 14%

大学院生 56% 「どちらでもない」 24%

全体 30% 「どちらでもない」 42% 「利用したくない」 13%

・レポートや論文の書き方に関する相談サービス

学部学生 66% 「どちらでもない」 25%

大学院生 60% 「どちらでもない」 32%

全体 65% 「どちらでもない」 26%

・資料や情報の探し方に関する相談サービス

学部学生 61% 「どちらでもない」 34%

大学院生 84% 「どちらでもない」 8%

全体 65% 「どちらでもない」 29%

◇ 学習方法については、学部学生の「利用したくない」という回答の割合が他に比べて高かった。学部学生よりも大学院生の期待が高い。

◇ レポート作成は両者とも同じように期待が高い。学部学生（66%）大学院生（60%）

◇ 資料や情報の探し方は、大学院生（84%）が多く期待をしていることがわかる。

→提供する相談サービスの内容・対象・実施方法を精査する必要がある。

3. 情報機器について

・パソコン・情報機器・ソフトウェアの使い方に関する相談サービス

学部学生 59% 「どちらでもない」 33%

全体 55% 「どちらでもない」 35%

・携帯端末（iPad 等）の館内貸出サービス

学部学生 65% 「どちらでもない」 26%

大学院生 52% 「どちらでもない」 36%

全体 62% 「どちらでもない」 28%

◇ パソコン・情報機器の使い方は学部学生の需要が高い。大学院生は学部学生に比べて情報機器の利用方法について習熟しているためではないだろうか。

◇ 携帯端末の館内貸出サービスは半数以上の学生が利用したいと回答している。

→IT 機器関連のサービスは、一定程度の需要が見込めるようだ。

4. 多言語カフェについて

・語学学習用個人スペース

学部学生 67% 「どちらでもない」 26%

大学院生 60% 「どちらでもない」 32%

全体 65% 「どちらでもない」 30%

大学院生 44% 「どちらでもない」 40%

・日本人学生と留学生あるいは留学生同士が知的交流できるスペース

学部学生 45% 「どちらでもない」 44%

大学院生 56% 「どちらでもない」 36%

全体 46% 「どちらでもない」 43%

◇ 語学学習用個人スペースは、学部生（67%）、院生（60%）共に期待が高い。

◇ 交流スペースについては、他のスペースに比べて「利用したい」という回答の割合が低く、「どちらでもない」という回答の割合が高い。他のスペースに比べて若干関心が低い。

→個人学習スペースについては需要が見込める。

交流スペースの活用方法を精査する必要がある。

5. 相談サービスに TA として関わりたいかどうか（大学院生のみ設問）

・パソコンソフトや IT 機器の使い方に関する相談サポート

「関わりたい」 20% 「どちらでもない」 52% 「関わりたいくない」 24%

・自分の専門分野に関する学習方法に関する相談サポート

「関わりたい」 56% 「どちらでもない」 32%

・レポートや論文の書き方に関する相談サポート

「関わりたい」 44% 「どちらでもない」 36%

・資料や情報の探し方に関する相談サポート

「関わりたい」 36% 「どちらでもない」 40%

→各種相談サービスに TA として関わりたいと考える大学院生が

一定の割合で存在することがわかった。

6. 自由記述欄について（抜粋）

・ゾーニング

グループ学習ができるスペースを歓迎する意見と共に、静かに学習できる空間と厳密に区分することを希望する意見が多かった。

・家具について

現行の 4 人掛けの机が非効率であるとの意見が目立った。個人用学習席の増設とともに、静的空間の 4 人掛けの机については、あらかじめ仕切りがついているタイプの家具を検討する必要がある。

◇ IT 機器に関する業務は、他の業務に比べて関わりたいと回答した学生の割合が低い。

◇ 自身の専門分野に関する学習相談業務に関わりたいと回答した学生の割合が高い。

（出典：平成 24 年度第 2 回附属図書館運営委員会 資料 5）

(資料 Z-1-2-1-2) これからの附属図書館

— 中央館改修後の基本的な運用計画 — (該当箇所)

1. 「学習支援」機能

(1) ラーニング・コモンズ

2010(平成22)年12月、文部科学省科学技術・学術審議会は「大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」の中で「大学における教育に関しては、学生は授業を受けるだけでなく、より自発的な学習や実践の必要性が重視されてきており、大学図書館にもその支援の『場』の提供や図書館職員等による学習支援が期待されている。さらに、学生にはインターネット等の情報環境に対応できる知識やスキルを身に付けることが求められている。」また、「最近の大学においては、学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、その支援を行うことが大学図書館にも求められている。近年、整備が進められているラーニング・コモンズ、図書館職員等によるレファレンスサービスや学習支援は、このような要請に応える方策といえる。」とまとめている。今回の改修により設置したラーニング・コモンズは、これを実現するものであり、複数の学生が集まって、電子情報資源も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するものである。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、図書館職員等が、それらを使った学生の自学自習を支援することも重要である。

ラーニング・コモンズは「スーパーアクティブエリア」「グループ学修室」「ライティングサポートエリア」を主な構成要素とする。

1) スーパーアクティブエリア

①学生が行うブレインストーミング(その前のアイデアの揺籃期のための活動を含む)、討議、プレゼンテーション、ゼミ活動といった「動」の要素を認め、むしろ奨励する場としてスーパーアクティブエリアを設ける。利用者(テーブル)間には十分な間隔を置き、学生(グループ)間がお互いの妨げとならないよう配慮する。デスクトップPCを設置すると共に、無線LANの環境を整備し、PCの持ち込みを認め、学習の段階(テーマを決める、リサーチする、構成を考えるなど)、個人・グループの別など利用における自由度の高いエリアとする。

②ラーニング・コモンズの発想からは「(熱が入って)にぎやかになる」ことをも認めるのが基本であるが、スーパーアクティブエリアが「うるさくなる」「他のグループや個人の妨げになる」ことのないよう施設・設備面で対応すると共に運用ルールを作り周知・徹底を図る。

2) グループ学修室

①2012(平成24)年、文部科学省は学士課程教育の質的転換を求め、次のように報告している。「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を持った人材は、受動的な学修経験では育成できない。求められる質の高い学士課程教育とは、教員と学生とが意思疎通を図りつつ、学生同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する課題解決型の能動的学修(アクティブ・ラーニング)によって、学生の思考力や表現力を引き出し、その知性を鍛える双方向の講義、演習、実験、実習や実技等の授業を中心とした教育である。」グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等学生のグループ学習やプレゼンテーションの練習に加え、教員によるセミナーの開催などの利用により、課題解決型の能動的学修(アクティブ・ラーニング)を可能にする場として、グループ学修室を整備する。図書館の多様な資料、インターネット環境に加えて、プロジェクター等の機器を整備することによって、こうした学習を支援する。また、学生たちによる、また教員による、あるいは教員と学生による研究会、読書会等の活動を積極的に受け入れる。

3) ライティングサポートエリア

①ライティングサポートエリアは、学生や大学院生のライティング及び関連スキルのサポートというミッションとともに、グループ学修室などと同様に、教員が図書館の持つ利便性（専門辞書類や参考文献の使いやすさなど）を活用した授業に利用することを積極的に受け入れるものとする。

②図書館内のライティングサポートエリアにライティング指導コーナーを設置し、大学教育機能開発総合研究センターのライティング指導員等による指導によって、学生のレポート作成支援の強化が期待できる。

③学生へのグループ指導や個別面接指導、またライティング短期講座の開催や授業など多様な指導方法に対応可能とするため、ライティングサポートエリアは同一フロアの他のエリアとは音環境として隔離された空間となるよう配慮する。

④グループ指導のため、あるいは個人指導のため、ほかの利用者からの干渉を受けず集中して指導を受けられるような独立性の強いスペースを確保する。

⑤図書館が有する多様な資料がシームレスに利用出来ることでライティングサポートの効果を高めることを期待するものである。また、図書館職員等による指導支援も視野に入れ、既存のライティング指導室との連携を密にして、ライティングサポートの業務がねらい通り遂行されることを目的とする。

(2) 個別学習空間

学生アンケートの結果から、4人掛け机（テーブル）の使いにくさを指摘する声が少ないことが明らかになった。中央館の利用が多い学部学生にとって中央館は様々な科目で課されるレポート作成のためのノウハウの習得と実際の情報収集、語学などの予復習、一般図書や新聞を読むこと、PCを利用し文献検索を行うこと等利用内容や形態は多岐にわたる。このような個々の学生の多様な学習形態に対応するため、個別の学習空間を大幅に増設することにより学生にとって図書館での学習は取り組みやすく、また魅力的なものになると考える。また、特に静謐な個別学習空間としてスーパーサイレントルームを設置する。

（出典：平成24年度第2回附属図書館運営委員会 資料5）

(資料Z-1-2-1-3) 図書館長と学生の懇談会

「図書館長と学生の懇談会」報告

○日時：平成25年1月18日（金） 16:30~18:00

○場所：放送大学3階 講義室1

○目的：改修後の図書館をよりよいものとするため、主として次のテーマについて学生の意見を直接聴取することを目的とする。

テーマ 「改修後の図書館に期待するもの」

○参加者：図書館長

学生 11名

文学部2名 法学部1名 教育学部2名 理学部1名 医学部1名

自然科学研究科1名 社会文化科学研究科2名 留学生1名（教育学研究科）

陪席 図書館スタッフ 9名

○意見及び回答（抜粋）

【改修後の図書館に期待するもの】

意見： 閲覧席、特に個人席を増やしてほしい。（自然・法）

回答： 個人席は50席程度増えます。

- 意見 : 改修後の図書館の防音設備はどうですか？(自然)
- 回答 : 1階から2階へできるだけ声が上がらないように工夫しています。
- 意見 : 計画図を見ると、以前より書架が少なくなるのではないですか？(社文)
- 回答 : 実質的には以前より多くなります。
- 意見 : 見晴らしのよい2階にソファがあればくつろげます。(文)
- 回答 : 2階は個人席を多くしています。静かにすごすことができます。
- 意見 : ガラス張りになるようですが、外から中が見えるのですか？(自然)
- 回答 : 外から中は見えません。ガラス張りは外装のようなもので、中には壁があると聞いています。
- 意見 : IT相談のコーナーができるようですが、若い世代は既に簡単な操作はでき、人に聞かなければならないような難しい操作を必要とする利用者は少ないと思います。(法)
- 意見 : 社会人学生の多い文系の大学院等では、ITに関する助言を必要とする方も多いです。(社文)
- 回答 : 図書館のパソコンコーナーは学内で最も利用率が高く、トラブルの確率も高いのでそのような時は相談に乗る必要があります。実際図書館で使って困ったときに相談に応じます。
- 意見 : ライティング指導室がなぜ図書館に移動する必要があるのですか？(文)
- 回答 : ライティング指導室はこれまでどおり全学教育棟にあって、そこから図書館のライティングサポートエリアに指導員がきて、図書館ならではのライティング指導をしてもらうように考えています。
- 意見 : リフレッシュルームと閲覧室の違いは飲み物が飲めるかどうかだけですか？リフレッシュルームに図書を持ち込んでもいいのですか？(文)
- 回答 : リフレッシュルームは閲覧室とは性質が違うものとして考えています。利用方法の詳細はこれから検討します。
- 意見 : グループ学習室にはプレゼン用のプロジェクターなどの機材はありますか？(理)
- 回答 : 設置予定です。
- 意見 : グループ学習室はいくつありますか？1日中利用できますか？(留)
- 回答 : 全部で3室あり、2つは10人程、1つは20人程が利用できます。みなさんが使い易いような利用方法を考えます。
- 意見 : 日本語のできない学生への対応はどうしていますか？(留)
- 回答 : 「利用案内」は英語版もあります。また、職員がうまく英語で対応できるわけではないので、職員養成を今後の課題と考えています。
- 意見 : スーパーアクティブエリアでの日本人と外国人の交流とはどのようなものですか？(留)
- 回答 : 学生や先生からこのような使い方したいとの提案をお待ちします。
- 意見 : 今までの図書館は、空気が悪く換気されていないと感じていました。(文)
- 回答 : これまでの空調は古くて調子が悪かったのですが、改修後は24時間換気になりますのでこれまでのようなことはありません。
- 意見 : 今後も1年に1回位このような学生の意見を聞く場を設けて欲しい。(自然)
- 回答 : 今後もこのような学生の声を聞く機会を、続けて設けていきたいと思っています。
- 【その他】
- 意見 : 外国の雑誌はどのくらいありますか？中国の雑誌はどうですか？(留)
- 回答 : 図書館には基本的なものを置きます。その他は関連の研究室や学部に配架されています。

意見	：	視聴覚コーナーの活用のために外国語学習教材を充実させてほしい。(社文)
回答	：	語学教材や問題集は率先しては購入していません。
意見	：	特に試験中は勉強場所がないので、医学系分館の開館時間を延長してください。(医)
回答	：	今後実情などを調査し対応できるか検討します。
意見	：	法学部の学生に有用なデータベースがありますが、利用の広報は行なっていますか？(法)
回答	：	図書館ガイダンスに判例コースがあり、4月の1年生のゼミ単位のガイダンスでも紹介しています。
意見	：	書庫へ行くときのロッカーに鍵をつけて欲しい(社文)
回答	：	以前は鍵がありましたが、私物化されることもあったので、今は鍵をつけていません。
意見	：	OPACで、詳しくどこの棚にあるかまでの所在位置の表示があればいい。(理)
回答	：	図書館の図書は常に移動しているので、細かいところまでの表示はできません。

(出典：平成24年度第5回附属図書館運営委員会 資料1)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

構成員(教員である図書館運営委員会及び学生)のニーズを調査し、要望に応える設備を整えて、リニューアルオープンが出来たことにより、期待される水準にあると判断できる。

観点 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

館長、部長及びユニット長等管理職は、全国的な組織である国立大学図書館協会が主催する総会やマネジメントセミナーをはじめとする各種会議並びにセミナー等に出席し、その成果を本館の管理運営に役立てている。また、実務に携わっている職員については、学内外で開催される専門的な研修のみならず、大学職員としての一般的な研修にも積極的に参加している(資料Z-1-3-1-1)。

附属図書館に所蔵する貴重資料は本学の特徴となっており、これに関する知識や取り扱いに関する人的な質の向上が必要である。今後、継続的な後継者養成のための取り組みが必要である。

(資料 Z-1-3-1-1) 平成 22~25 年度に参加した主な会議・研修等

会議・研修等名		H22	H23	H24	H25
学 外	国立大学図書館協会総会及びマネジメントセミナー	3	2	2	3
	九州地区大学図書館協議会総会	3	2	2	3
	九州地区国立大学図書館協会総会	3	2	2	3
	熊本県大学図書館協議会総会	2	2	2	2
	熊本県大学図書館協議会研修会	2	3	1	1
	熊本県図書館連絡協議会理事会	2	2	1	1
	熊本県図書館連絡協議会研修会	1	1	1	1
	国立情報学研究所が主催する研修	1	1	1	
	図書館等職員著作権実務講習会(文化庁)	1			
	その他研究機関等が主催する研修等	4	4	2	6
学 内	ビジネスマナー研修		3		
	クレーム対応研修	1	1		
	OJT 指導の仕方研修		1	2	1
	その他学内で開催される研修等	4	3	5	1

(出典：図書館ユニット資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

附属図書館では実務を担当する職員だけでなく、管理職を含めた全職員が資質向上のため積極的に関係する会議並びに研修等に参加し、その成果を実務に活かしている。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点 活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

附属図書館では、各部局等の活動の活性化を目的として、根拠となる資料・データに基づき、活動の自己点検・評価を行う全学的な「組織評価」を定期的(第1回:平成19年度、第2回:平成26年度予定)に実施しており、実施後の自己評価書は、熊本大学のホームページ(<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/hyouka/hyouka>)に掲載している。

また、全学的に実施される法人評価及び認証評価のための自己点検評価も定期的に行っている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

附属図書館では、部局独自の自己点検・評価は実施していないが、活動の自己点検・評価を行う全学的な「組織評価」の際に一部局として定期的に行っており、また、全学的に実施される法人評価及び認証評価のための自己点検評価も定期的に行っている。

観点 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

（観点に係る状況）

附属図書館では、全学的に実施される法人評価、認証評価の自己評価を実施し、法人評価は国立大学法人評価委員会（毎年度及び第1期：平成21年度、第2期：平成28年度予定）に、認証評価（第1回：平成21年度、第2回：平成27年度予定）は認証評価機関に定期的に評価を受けている。

また、平成26年度に実施する組織評価では、経営協議会で検証を行うこととなっている。

なお、利用者が意見を自由に記載できる「ご意見ご要望リクエスト」用紙をカウンターに設置しており、一般市民の意見やニーズは把握出来ている。用紙では把握できない部分について、今後どのように意見を取り入れるか、検討する必要がある。

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

附属図書館では、全学的に実施される法人評価、認証評価の自己評価を実施し、定期的に本学が外部機関による法人評価並びに認証評価を受ける際に一部局として評価を受けている。

観点 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

（観点に係る状況）

附属図書館の自己点検・評価については、組織評価委員会において評価作業を行い、自己評価書は管理運営組織である運営委員会の議を経て確定する。

このように自己評価の内容は、運営委員会の委員全員が承知しており、評価結果に基づいた管理運営を行っている。

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

附属図書館の自己点検・評価の評価結果は、管理運営組織である運営委員会の委員全員が承知し、その評価結果に基づいた管理運営が可能な仕組みになっている。外部利用者の「ご意見ご要望リクエスト」による評価も併せて、日々の図書館運営に活かされている。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。（教育情報の公表）

※該当なし

分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。（施設・設備）

観点 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

平成24年より耐震補強及び学修環境の整備のための全面改修工事を実施し、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面の整備を図った（資料Z-2-1-1-1）（資料Z-2-1-1-2）。

平成 25 年 10 月 1 日に中央館 1 階にオープンしたラーニングコモンズ内には、プレゼン練習や授業でも利用可能なグループ学修室やアクティブエリア、ライティングサポートエリア、レファレンスカウンター等を設置した。古文書閲覧室で平成 25 年 11 月に第 29 回熊本大学附属図書館貴重資料展・公開講演会/第 8 回永青文庫セミナーを実施し、グループ学修室で平成 26 年 1 月 20 日に第 16 回 21 世紀型大学教育セミナーを実施した。アクティブエリアでも、平成 26 年 3 月 27 日の高大連携イベント「高校生のための文章講座」を開催した。また、2 階には学生から要望のあった個席を増やし、新たにスーパーサイレントルームを設置し、静謐な学修環境を整備した(資料 Z-2-1-1-3)(資料 Z-2-1-1-4)。

なお、前述の全面改修は耐震改修を主目的としたもので床面積の増設には至っておらず、今後も蔵書数は増加し、各部局に貸し出してある図書・資料の返却が続くと予想され、現在の中央館の蓄機能ではこうした事態に対応することが難しい。

また、所蔵している重要文化財にふさわしい管理が求められ、これらを収納し、調査研究・展示までを行える高度な機能を備えた施設が必要になってくる。

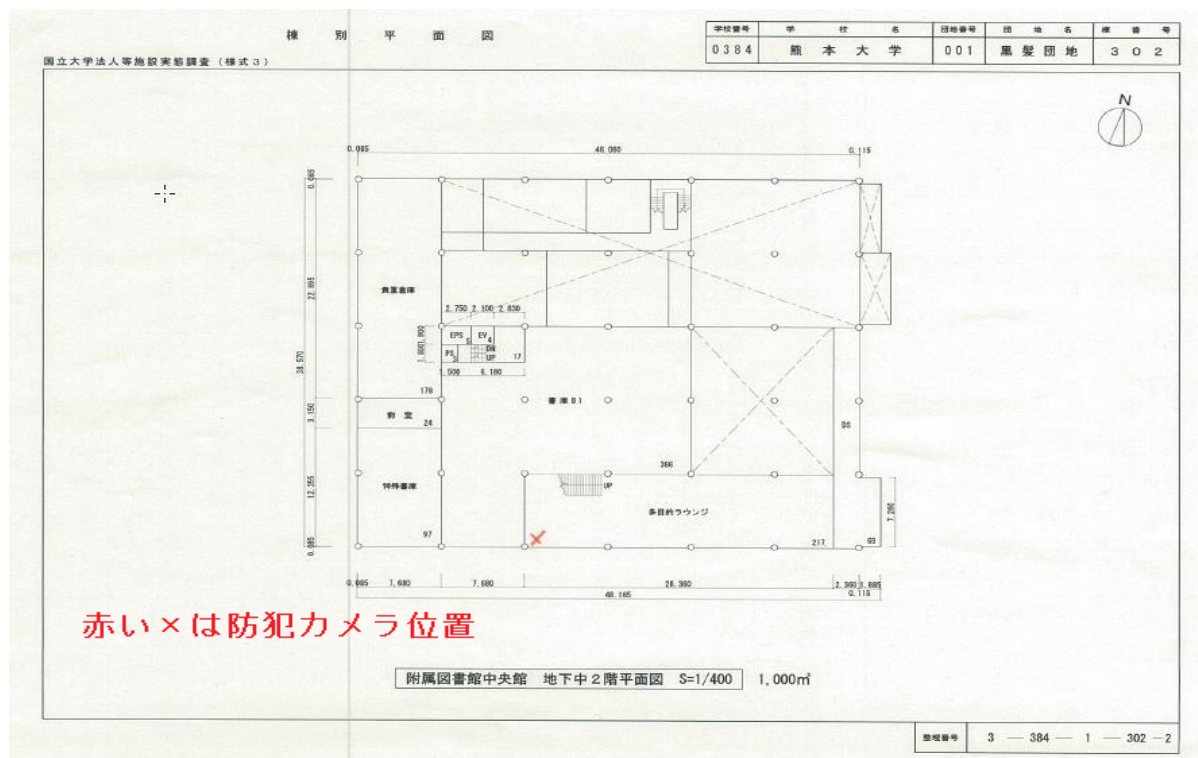
(資料 Z-2-1-1-1) 施設・設備状況

占有延床面積	書架棚総延長	図書収容能力	H25 年度 入館者数〔延数〕
8884.00 m ²	27.11 k m	75.3 万冊	170,330 人

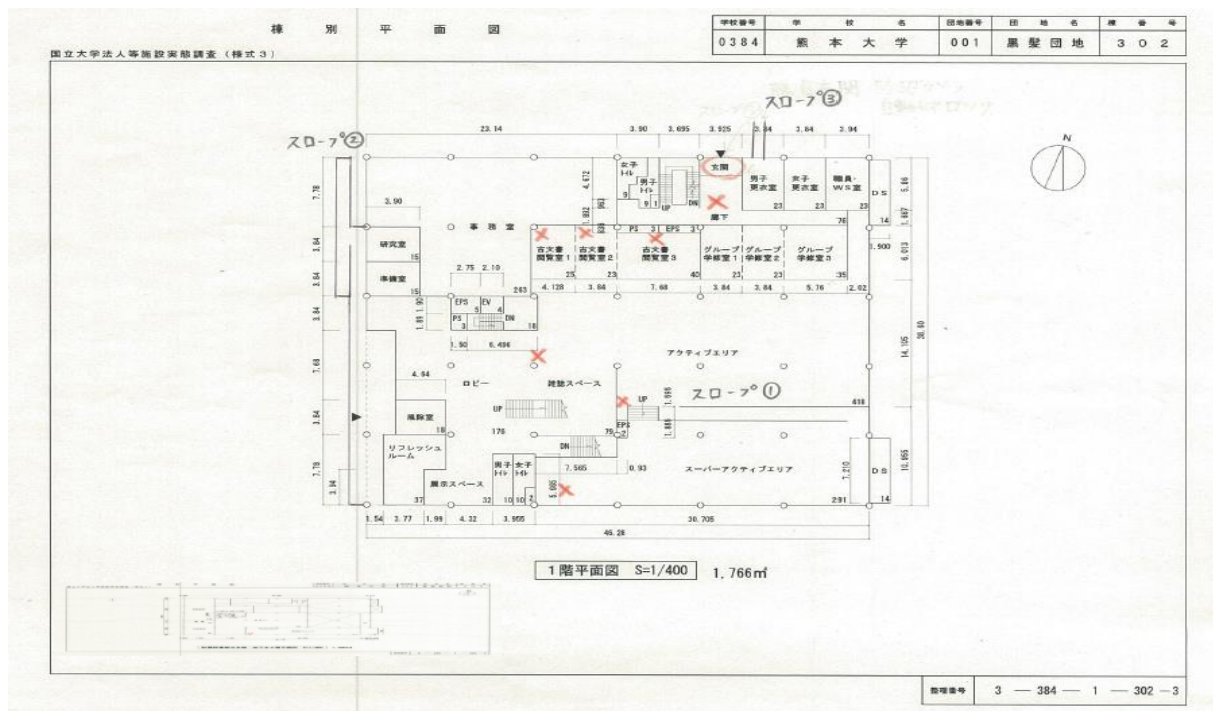
(出典：大学・短期大学・高専図書館調査票 2014)

(資料 Z-2-1-1-2)

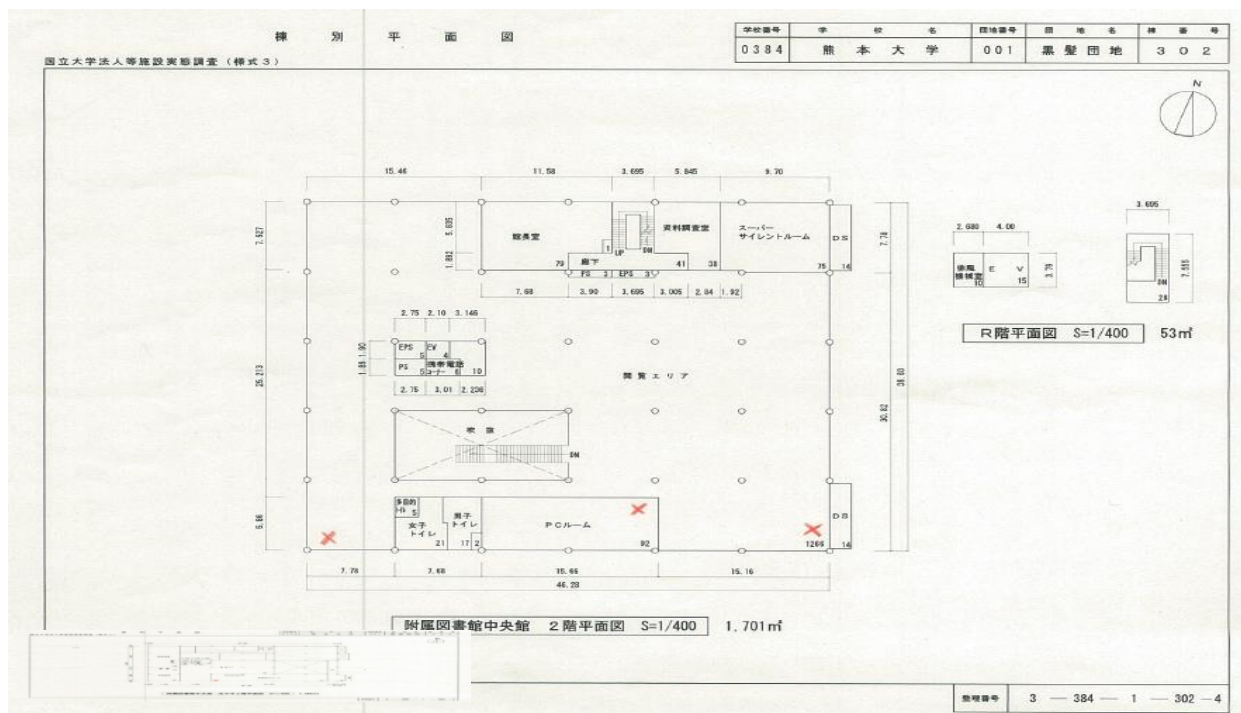
バリアフリー(スロープ)及び安全・防犯面(防犯カメラ・自動ドア)配置図
(地下中 2 階平面図)



(1階平面図)



(2階平面図)



(出典：図書館ユニット資料)

(資料 Z-2-1-1-3) 中央館館内地図



(出典:熊本大学附属図書館中央館リニューアルオープン資料)

(資料 Z-2-1-1-4) 「図書館長と学生の懇談会」 報告

<p>「図書館長と学生の懇談会」 報告 (抜粋)</p> <p>○テーマ 「改修後の図書館に期待するもの」</p> <p>日時:平成 25 年 1 月 1 8 日 (金) 16:30-18:00 場所:放送大学 3 階 講義室 1</p>	
<p>学生の意見</p>	<p>図書館からの回答</p>
<p>閲覧席、特に個人席を増やしてほしい。 (自然・法)</p>	<p>個人席は 50 席ほど増える。</p>
<p>改修後の図書館の防音設備はどうか。(自然)</p>	<p>1 階から 2 階へ出来るだけ声が上がらないよう工夫している。</p>
<p>計画図を見ると、以前より書架が少なくなっているのではないか (社文)</p>	<p>以前より増える。</p>

(出典:「図書館長と学生の懇談会」報告を基に作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

平成 25 年 10 月より、グループ学修室では熊本大学ライティング指導室 (平成 26 年 4 月よりライティング&コミュニケーションラボ (WCL)) によるラーニングコモンズを活用した講座が開講され、延べ人数 1,105 人が利用した。また、学生によるプレゼンや語学の練習、ディスカッション等にも利用されている。

館内の防犯カメラの導入や職員通用口の常時施錠化により、安全・防犯面でも成果をあげている。

これらの取り組みや活動、成果の状況は極めて良好であり、期待される水準を上回ると判断できる。

観点 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

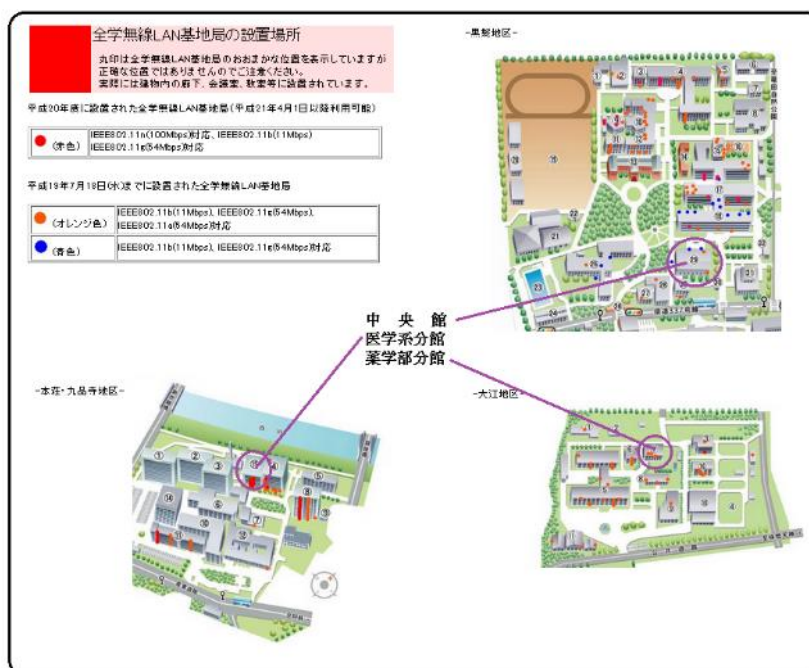
(観点に係る状況)

附属図書館中央館、医学系分館、薬学部分館の各館内に全学無線 LAN 基地局が設置されていて、学生がノート PC、タブレット端末、スマートフォンから自由にインターネットに接続できるだけでなく、大学が契約している有料のデータベース、電子ジャーナルにアクセスできる環境が整っている(資料 Z-2-2-1-1)。

このほか、附属図書館各館には学生が利用できるパソコン(総合情報統括センター所管の教育用端末)が合計 139 台設置されている。

この台数は、全学の 1 割強にすぎないが、図書館のパソコンは開館時間帯ならいつでも利用できるの学生にとっては最も利用し易いパソコンとなっている(資料 Z-2-2-1-2)。

(資料 Z-2-2-1-1) 学内無線 LAN 基地局配置図(抜粋)



(出典：図書館ユニット資料)

(資料 Z-2-2-1-2) 教育用端末及び教育用プリンタの設置場所と台数

設置場所	端末数	プリンタ数
総合情報統括センター 3階 実習室 1	97	3
総合情報統括センター 4階 実習室 2	57	2
全学教育棟 A棟 4階 A404 教室	31	1
全学教育棟 A棟 4階 A405 教室	31	1
全学教育棟 A棟 4階 A406 教室	69	2
全学教育棟 A棟 4階 A407 教室	53	2
全学教育棟 A棟 4階 A408 教室	53	2
全学教育棟 B棟 4階 B401 教室	105	3
全学教育棟 A棟 3階 A302 教室	61	2
全学教育棟 B棟 3階 B301 教室	61	2
全学教育棟 B棟 3階 B302 教室	61	2
生命科学研究部 医学部総合研究棟 3階 情報演習室	127	3
生命科学研究部 薬学部本館 C棟 2階 パソコン室	101	3
自然科学研究科・理学部総合研究実験棟 6階 コンピューター室	49	2
工学部研究棟 IV 1階 計算機室	109	3
附属図書館 中央館 1階 PCルーム	48	1
附属図書館 中央館 2階 PCルーム	40	1
生命科学研究部 医学部医学教育図書棟 2階附属図書館医学系分館	36	1
生命科学研究部 薬学部E棟 2階附属図書館薬学部分館	15	1
医学部保健学科 A棟 204 講義室	49	2
医学部保健学科 B棟 201 講義室	33	1
医学部保健学科 図書室	4	1
総合情報統括センター (テスト用)	20	0
総合情報統括センター (保守用)	40	0
合計	1,350	41

(出典：図書館ユニット資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

『附属図書館の利用者全員が ICT 環境を享受できる。』を目標としている。

パソコンコーナーを設けて相当数の端末機器を設置しているほか、無線 LAN 基地局を整えていることから教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境は整えていると判断できる。

観点 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。
--

(観点に係る状況)

附属図書館では、全学の図書の購入をまとめて行っており、各学部からの請求にもとづいて図書を発注し、目録作業後に各学部へ配送している。目録作業の実施により、蔵書検索システムで所蔵資料の検索ができる。図書館に配架する図書は、シラバス掲載参考図書、学生の希望図書、人文社会系大学院からの推薦図書、分野を限った重点図書、図書館員の選書と多岐に渡って選書されており、教育研究に必要な図書を教育研究組織及び教育課程に応じて偏りが無いように収集、整理している。紙媒体以外に電子ブックを購入し図書館

ホームページ (<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/support/db/41>) から、学内のどこからでも、常時パソコンをとおして利用できるようにしている。各学部の図書は通常は各学部に置かれているが、利用の必要がなくなった場合は図書館へ返却され、再配架されることにより有効な活用に寄与している。附属図書館は授業のある期間、中央館は平日 22 時まで、医学系分館は平日 21 時まで、土日休日は中央館・医学系分館とも 12 時～18 時まで開館している。資料の貸出冊数は改修中を除いて増加しており、資料が活発に利用されていることが判る（資料 Z-2-3-1-1）。

（資料 Z-2-3-1-1） 利用統計

	図書貸出冊数	電子ジャーナルダウンロード数
平成 21 年度	65,611	552,293
平成 22 年度	65,994	570,440
平成 23 年度	68,478	562,936
平成 24 年度	53,929	532,735
平成 25 年度	64,573	547,963

平成 24～25 年度は改修中 （出典：熊本大学データ集 2014）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

図書館の図書は多様な選書方法で、網羅的・段階的に収集している。収集した資料は蔵書検索システムで時間・場所を問わず検索でき、図書館が夜間・休日とも開館していることによりいつでも活用できる。貸出冊数は毎年増加している。以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 自主学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

中央館では、平成 25 年 10 月のリニューアルオープンより 1 階にラーニングコモンズを設置した。ラーニングコモンズには、プレゼン練習や授業でも利用可能なグループ学修室や、テーブルと椅子の配置を自由に変えられるアクティブエリア、レファレンスカウンターを設置した。また、プロジェクターとホワイトボードを設置し、サイレントエリアとして静謐な学修環境を整備した。学生の要望により個席数を増やし、スーパーサイレントルームを設置し、静謐な学修環境を提供している。また、飲食が可能なリフレッシュルームを設置し、自動販売機を 1 台設けている（資料 Z-2-4-1-1）（資料 Z-2-1-1-3（77 頁））（資料 Z-2-1-1-4（77 頁））。1 階のアクティブエリアにおいてのホワイトボードの使用はもちろん、グループ学修室はプレゼンテーション練習やゼミ研究の予約が入っている。2 階のサイレントエリアでも個席やパソコンコーナーでのレポート作成が見られ、効果的に利用されている。

(資料 Z-2-4-1-1) 施設整備状況

名称	1階 ラーニングcommons		2階 サイレントエリア	
	グループ学修室	その他 (アクティブエリア パソコンコーナー 等)	スーパー サイレントル ーム	その他 (パソコンコーナ ー 閲覧席等)
座席	40	138	23	247
パソコン台数	0	48	0	40
ホワイトボード	3	4	0	0
プロジェクター数	3	1	0	1

H25年度入館者数：170,330人

(出典:図書館ユニット資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

改修により、多様なニーズに応じた学修環境の提供が可能になり、各施設設備は効果的に利用されている。よって、期待される水準にあると判断できる。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

管理運営体制は、附属図書館運営委員会を中心に整備されている。事務組織は、平成23年度よりサービス業務の一部を外部へ委託しており、それに伴い、図書館職員は平成21年度当時19名の定員数が、25年度には14名に減じた。平成21年度の図書館事務組織は1課に管理系・サービス系があり1課長・2副課長の下で機能していたが、平成22年10月以降は1ユニット2チーム制をとっているものの、一人のチームリーダーが2チームを兼任している状態が続いている。本学図書館の人的資源不足は顕著であり、外部委託により一部の業務については、経験を積むことが困難になり事務組織として知の継承が難しくなっている。また、本学の特徴である貴重資料の管理には専門的な知識や技術が必要であり、その後継者の育成も喫緊の課題となっている。

上記により、管理運営体制及び事務組織に関しては、「質を維持しているとはいえない」状況である。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

附属図書館では、全学的に実施される法人評価、認証評価の自己評価を実施している。

自己評価の内容は、附属図書館の管理運営組織である運営委員会の委員全員が承知しており、評価結果に基づいた管理運営を行っているが、平成21年度も同様であったことから向上度は「質を維持している」状況である。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

※該当なし

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

「重要な質の変化あり」

平成24年より耐震補強及び学修環境の整備のための全面改修工事を実施し、施設・設備等を一新した。

改修後の附属図書館では多様なニーズに応じた学修環境を提供しており、特にラーニングコモンズでは、利用者同士の交流と啓発の場を設けることができた(資料Z-2-1-1-3 (77頁))。

1階のアクティブエリアでは、プレゼンテーション練習やホワイトボードの使用も多くみられる。2階のサイレントエリアでは、学生の要望が多い個席を設置した。

図書の貸出については、改修工事期間中に図書館機能を縮小している期間も、可能な限り貸出に応じ、資料の有効活用に努めた(資料Z-2-3-1-1 (80頁))。

上記により、質の向上度は「大きく改善、向上している」と判断できる。